

# 第3章 遺物

## 第1節 概要

### 1 出土遺物の概要

今回の笹平遺跡からの出土遺物は27リットルコンテナで、総計459箱にのぼった。縄文時代をみると、弥生時代・古代以降の遺物もごく若干含まれるもの、縄文時代に属する遺物が圧倒的に多い。宅地や耕作地であった場所も、縄文時代の包含層を搅乱する形での土地利用であったと考えられ、おしなべて縄文時代の遺物が含まれている状況であった。

遺物の種別を見ると、土器・陶器・土製品・石器・石製品が確認されている。陶器は、古代以降の遺物として別途報告することから、ここでは縄文時代・弥生時代の遺物について報告していくこととする。

なお、報告では、可能な限りの遺物資料を図化・掲載することを目的としているため、すべての資料についての報告を本文中では行うことができない状況にある。個別の資料報告については、遺物一覧表で行うこととする。本報告に関する一覧表一式は令和4年3月現在開設されている、愛知県埋蔵文化財センターホームページからダウンロード可能となっており、こちらからのデータの利用をお願いしたい (<http://www.maibun.com/DownDate/newhouko.html>)。

### 2 資料整理調査の経過

発掘調査から持ち込まれた出土遺物は、調査グリッド・遺構・取上日付けなどの単位別に一括取上されているものと、各資料別に座標値を測ったドット取上の資料がある。一括取上された資料は、土器・土製品・石器・石製品に分類したあと、各種で部位に分け、さらに接合などを通じて破片同士の同一個体の検討を行った。その上で、土器片に関しては口縁部・底部片は可能な限り分離し、胴部片に関しては破片径1cmを目安に分離を試み、それ以下の土器細片は一括のままとなっている。石器に関しては、微細剥片を除いて、可能な限り一片ずつの分離を試みた。上記の工程を経て、出土遺構・グリッド順に、それぞれに整理番号を付し、器種や部位・法量のほか、土器であれば胎土・文様・調整、石器であれば石材など、各資料の属性をまとめた一覧表を作成した。この一覧表は整理調査の基本台帳となるもので、統計的処理の実施のほか、実測図化・写真・科学分析の実施などの管理も行った。

## 第2節 縄文土器・土製品・

### 弥生土器

縄文土器・弥生土器は総重量140,860gの出土を確認した。このうち、深鉢・鉢が3264点（口縁部が確認できる個体・破片が1516点、底部のみが確認できる個体・破片が242点）、浅鉢・鉢が41点（口縁部が確認できる個体・破片が13点、底部のみが確認できる個体・破片が11点）、壺もしくは注口土器が148点（注口部28点）、台付鉢台部が3点、釣手土器が1点であった。

出土土器には、以下の時期の資料を確認した。

#### 1 縄文土器（器種別の概要）

##### （1）深鉢・鉢

縄文時代早期前半

山形押型文【1327～1329】

網目状縞糸文【1769】

横円押型文（高山寺式）【2023・2024】

縄文時代早期後半

茅山下層式・元野式【161・364～366・1492・1833・1970・2309～2311・2495】

八ツ崎I式【367・1601・1602・1608・2494・2605】

柏畑式【368・376・491・692・918・1325・1326・1331～1333・1453・1609・1767・1768・1852・2206・2213・2308・2407・2492・2493・2815・3086・3087・3107】

入海I式【643・2607・3088・3109】

縄文時代中期初頭～中葉

北裏C1式【458・459】

山田平式【2412・2445・2820】

縄文時代中期後半

中富IV・V式【36・37・2822・2823】

神明式【1～3・6～8・14・18～20・84】

取組式【4・76】

親田式【5】

取組式・島崎III式以降【9・11・2437～2440】

縄文時代後期初頭～中葉前半

中津・称名寺式【177・336～342・369～395・408～412・418・419・478・552～555・559～579・582・584・585・587～597・638・666・

668・675・678・679・721・725・727・728・  
779～783・785～787・789・790・819・821・  
823・857・1012・1018・1019・1021・1022・  
1025・1026～1028・1199～1203・1308・  
1463～1465・1491・1551～1554・1556・  
1557・1600・1614・1717・1737～1739・1755・  
1756・1773・1774・1840・1866・2002・2009・  
2278・2497～2500・2552・2629～2632・  
2827・3157・3158】

四ツ池段階【477・2634】

福田K2式【88～100・149・183～190・  
267・270・330・370・487・488・492・499・  
512～520・522～525・548・550・611・  
612・624・625・632・669・680・693・702・  
713・718・741・768～770・793・828・878・  
936・1040・1135・1318・1319・1420・1421・  
1471・1477・1493・1516～1520・1537～  
1539・1562・1572・1584・1598・1599・1604・  
1615・1686・1695・1697・1699・1709・1710・  
1757・1759・1813・1819・1830・1847・1853・  
1894・1902・1903・1929・1931・1934・1959・  
2010・2011・2019・2024・2028・2038・2039・  
2057・2058・2118・2119・2140・2143・2144～  
2147・2187・2207・2268・2325・2344・  
2347・2349・2353・2354・2359・2364・2365・  
2430・2452・2453・2486・2502・2527・2536・  
2542・2543・2549・2561・2593～2597・2634～  
2638・2640・2672～2674・2754・2755・  
2788・2789・2842～2855・2857～2860・  
2862・3002・3003・3005・3061・3093・3094・  
3127・3133・3144・3154・3159・3180・3181・  
3193・3202・3209・3223】

北白川上層式併行(堀之内2式併行を含む)【101・191～193・271・431・691・1000・1001・  
1451・1569・1590・1733・1817・1846・1940・  
2261・2355・2382・2458・2562・2639・2675・  
3008】

八王子式(八王子1式)【101～104・106・  
146・164・164・171・172・195～199・242・  
272・334・350・351・432・433・440・454・  
470・503・619・620・656・748・749・759・  
761・776・794・795・803～805・860・873・  
886・887・915・1045・1047・1048・1211・  
1423・1438・1505・1543・1562・1564・1579・  
1589・1591・1728・1743・1909・2069～  
2073・2087・2088・2091・2094・2100・2112・  
2120・2148・2191・2222・2234・2366・2367・  
2383・2396・2444・2519・2529・2569・2589・  
2676・2677・2678・2770・2906～2911・  
2915・2924・3025・3137・3150・3164・3195・  
3197・3225・3227】

織文時代後期中葉後半

西北出式(八王子2式)【150・200・544・901・  
905・1049～1052・1161～1164・1213・1215～  
1220・1497・1858・2074・2292・2368・  
2422・2460・2679・2681・2912・2913・3096・  
3165・3229】

観塚K2式【107～109・201・352・545・  
644・645・687・875・913・940・962・1003・  
1377・1424・1522・1666・1877・1952・1996・  
1997・2025・2075・2077・2121・2149・2150・  
2192・2225・2235・2264・2328・2420・2421・  
2639・2683～2686・2790・2916～2923・  
3117・3134・3172・3192・3203・3226】

一乘寺K式併行【1578】

元住吉山I式併行【2151】

織文時代後期後葉

元住吉山II式併行【380・507・621・657・798・  
867・895・942～944・946・1061～1067・  
1165～1167・1186・1253～1256・1312・  
1390・1450・1596・1788・2008・2265・2323・  
2688～2694・2945～2947・3097・3139・  
3210】

宮滝式(古)【134～137・238・332・444・  
484・658・659・947～953・1068～1073・  
1169・1257・1259～1264・1315・1341・  
1363・1373・1379・1425・1444・1718・1777・  
1782・1827・1859・1910・1988・1989・2080・  
2127・2237・2291・2369・2370・2371・2571・  
2695・2696・2697・2698・2699・2952～  
2965・3200・3216】

宮滝式(新)【237・239・372・381・445・  
868・954～957・1074・1075・1168・1258・  
1265・1266・1317・1364・1689・1735・1815・  
1895・1896・1930・2014・2017・2052・2113・  
2236・2254・2266・2320・2572・2573・2700～  
2706・2708・2966～2971・2973・2974・  
3040・3098・3125・3140・3147・3175・3211・  
3217】

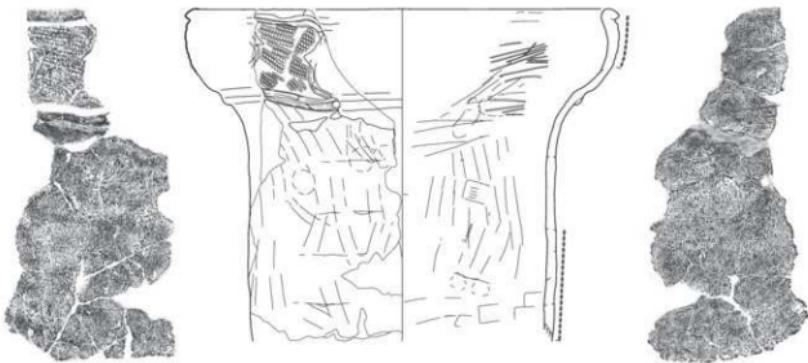
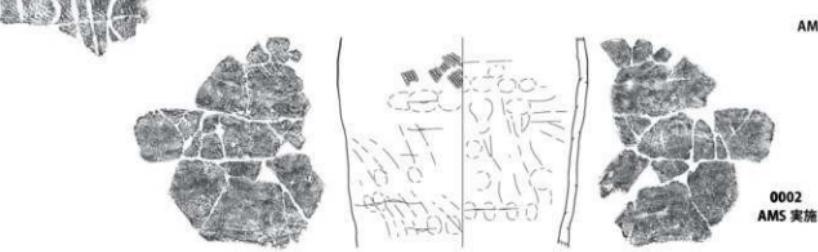
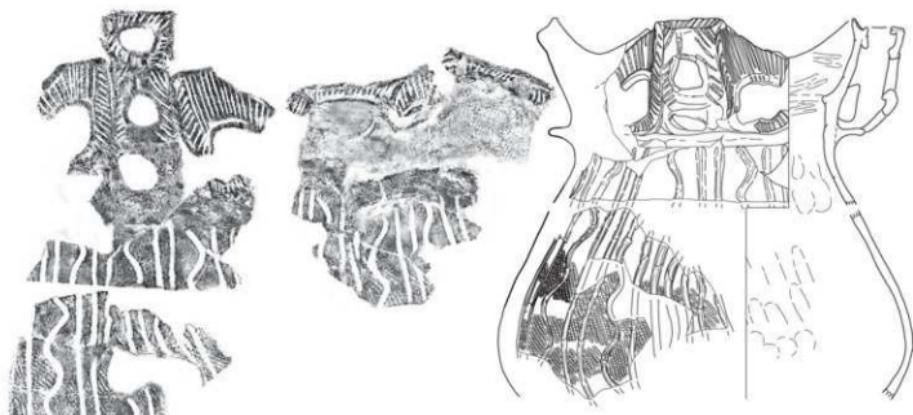
伊川津式/神谷沢式/寺津下層式併行【358・  
850・880・907・945・958～961・963～967・  
971・972・996・1350・1365～1367・1374・  
1391～1396・1426・1439・1445・1730・  
1783・1860～1862・1872・1873・1880・  
1900・1957・1958・1967・1981・2047・2138・  
2227・2491・2575・2709～2713・2975～  
2979・3148】

上ノ段式(異系統)【471・1283・1284・1527・  
1547・1879・1965・2122】

中ノ沢式(異系統)【919・1510・1681・2267】

加曾利B3併行瘤付(異系統)【2441】

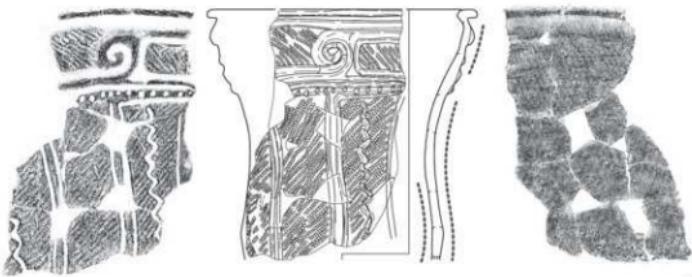
脇部に矢羽根状集合沈線を有する一群【760・  
1056・1221～1225・2152・2479・2530・  
2539・2772・2915・2924～2930・3227】



0 (1/4) 20cm

15Cb 3893SI

第 100 図 3893SI 出土土器 (1)



0004  
AMS 実施



0005



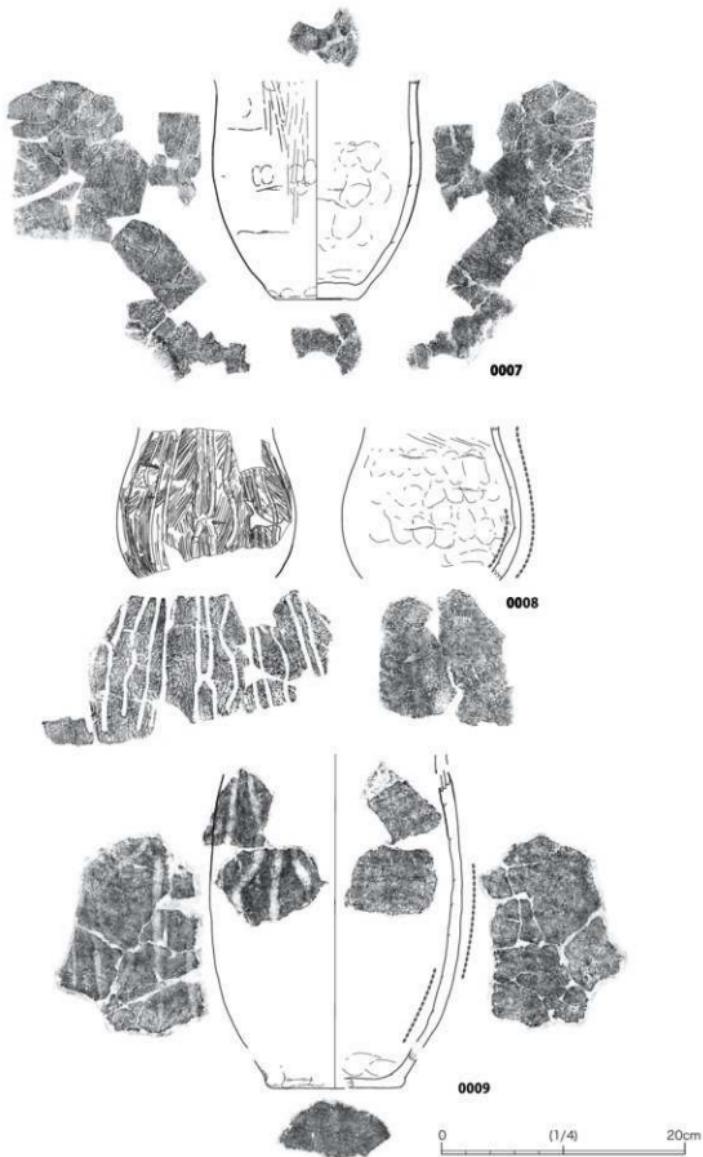
0006  
AMS 実施



0 (1/4) 20cm

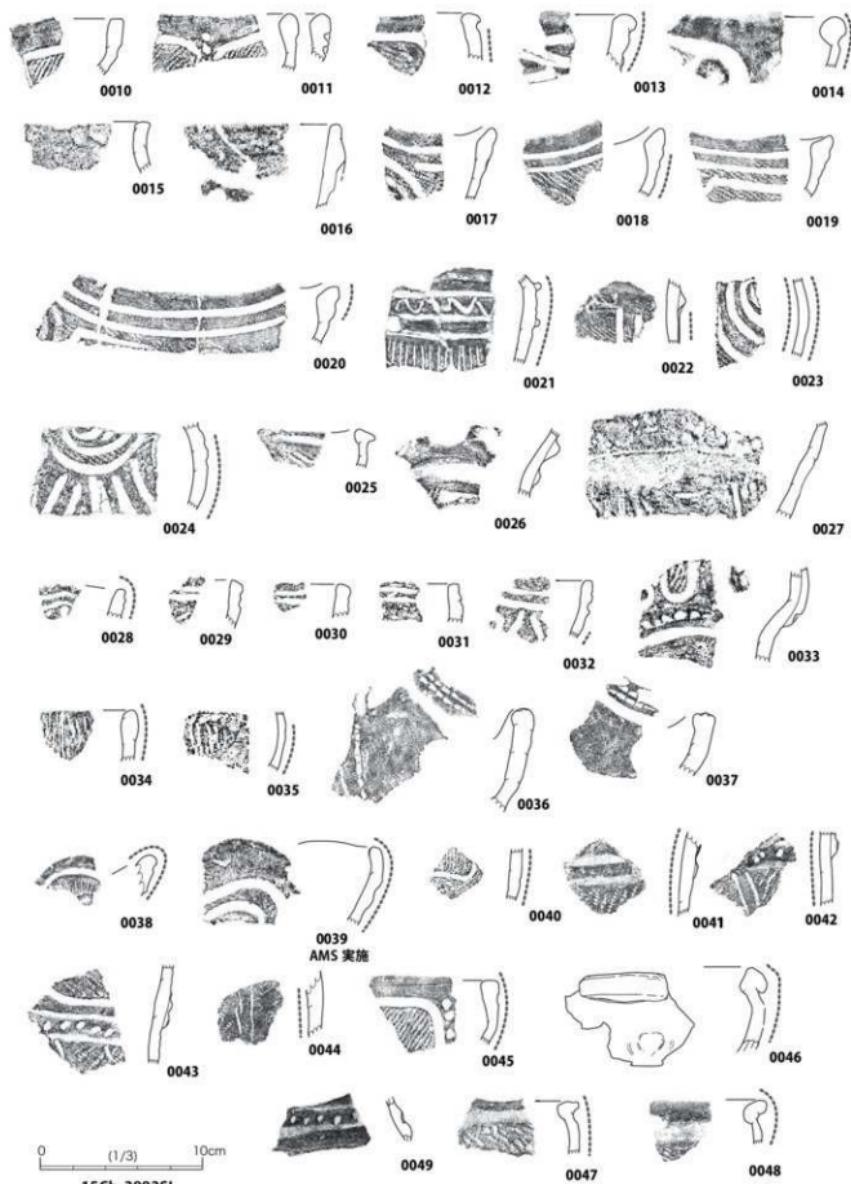
15Cb 3893SI

第 101 図 3893SI 出土土器 (2)

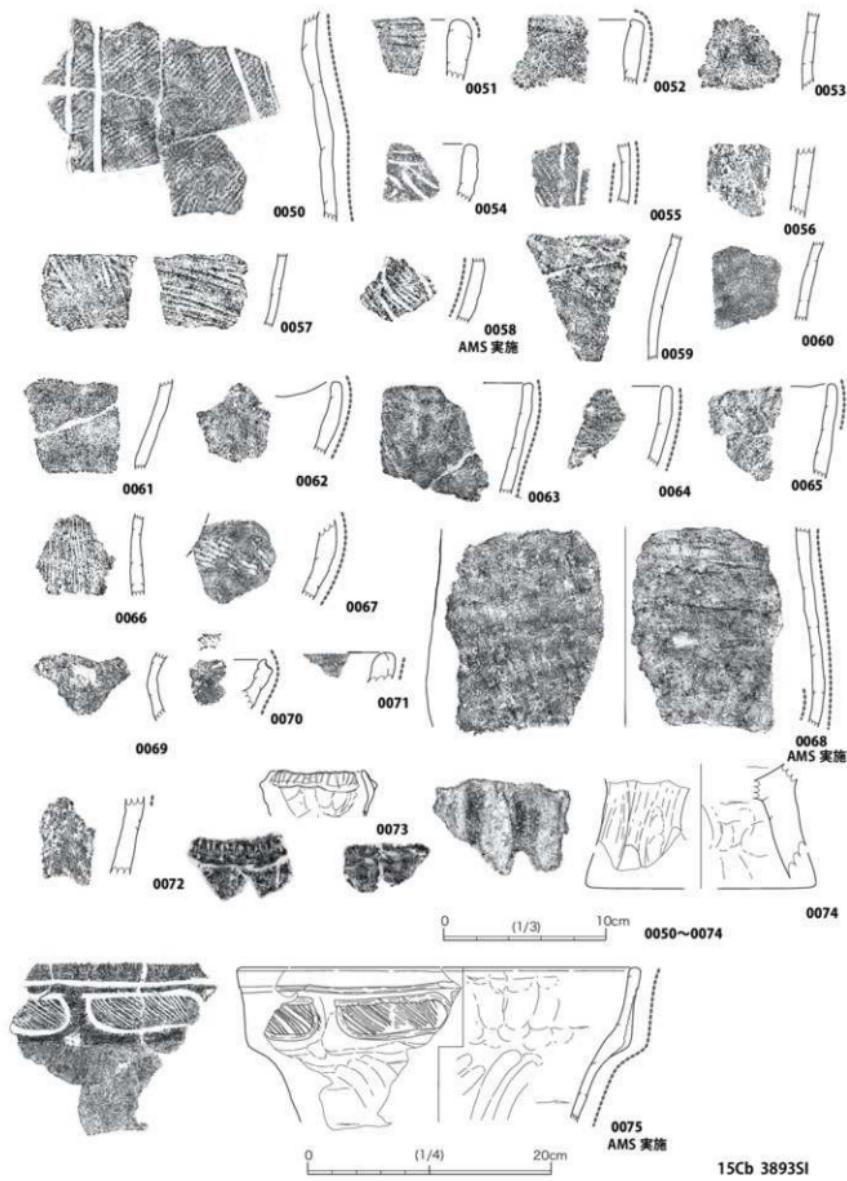


第102図 3893SI出土土器(3)

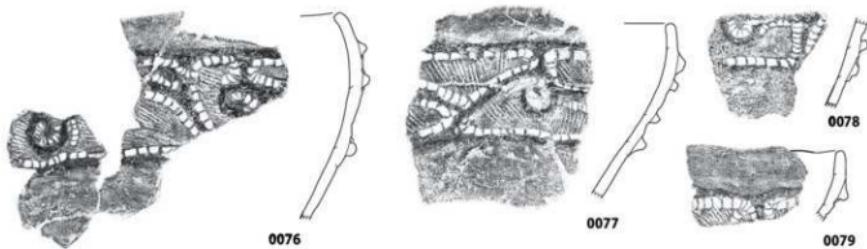
15Cb 3893SI



第 103 図 3893SI 出土土器 (4)



第 104 図 3893SI 出土土器 (5)



15Cb 4230SK

0076~0083 0 (1/3) 10cm

0080



0 (1/3) 10cm

0084



15Cb4119SL

0084・0085

0 (1/4) 20cm

0085



0088

0088



0089



0090

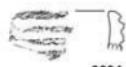


0092

0092



0093



0094

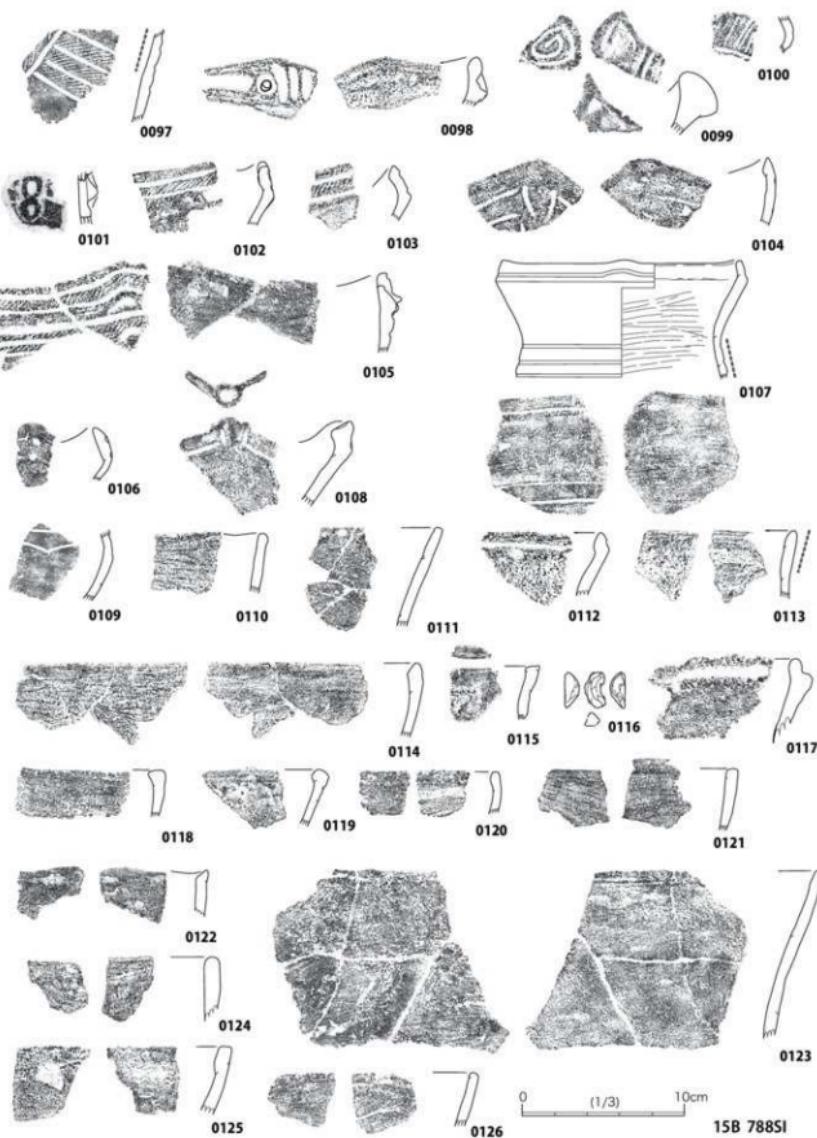


0095

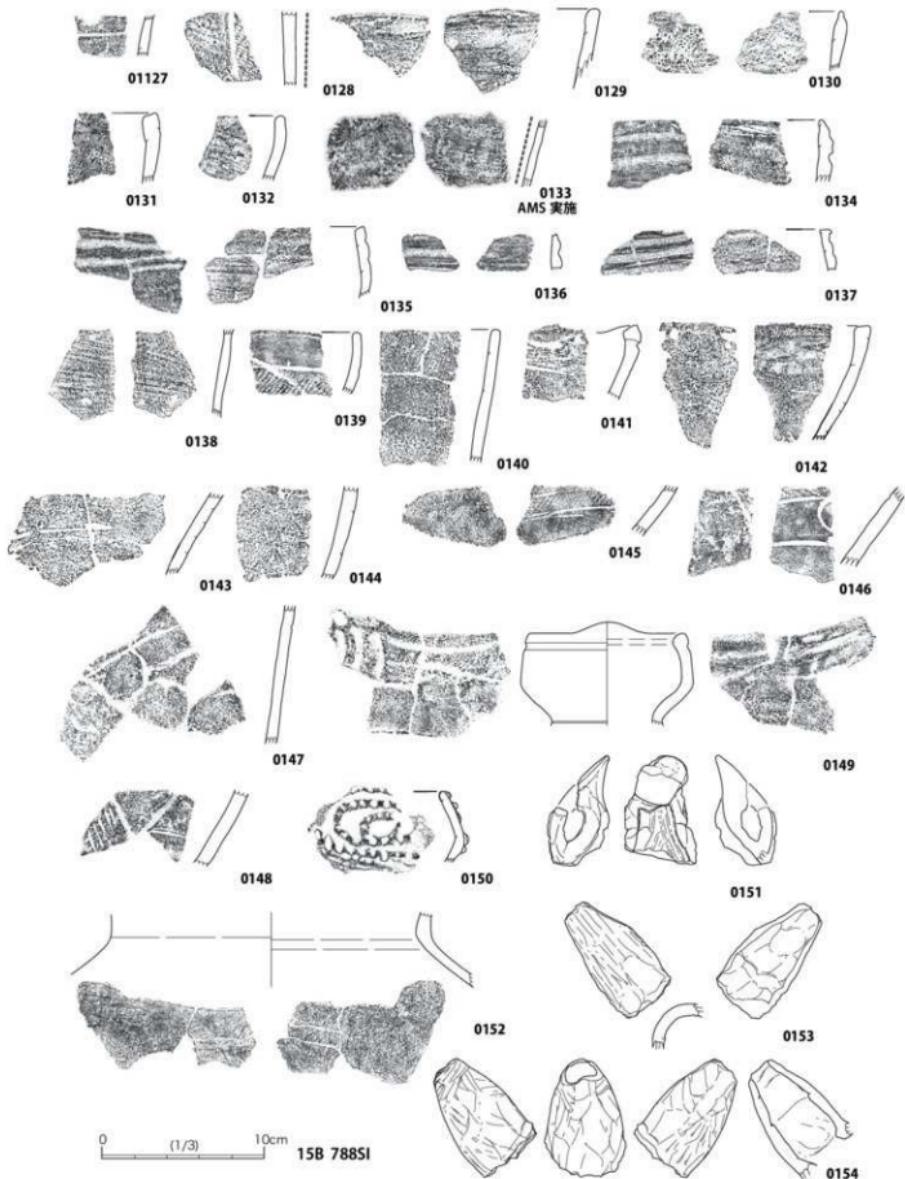
15B 788SI

0086~0097 0 (1/3) 10cm

第105図 4230SK 他出土土器



第106図 788SI出土土器(1)



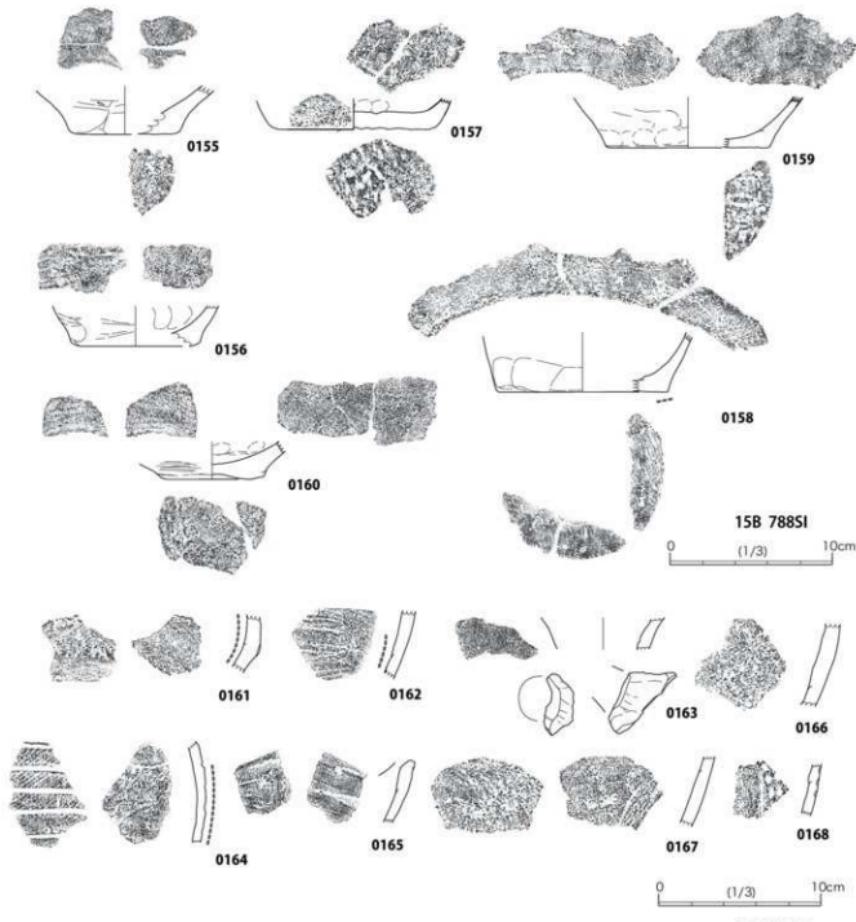
第 107 図 788SI 出土土器 (2)

縄文時代晚期前半

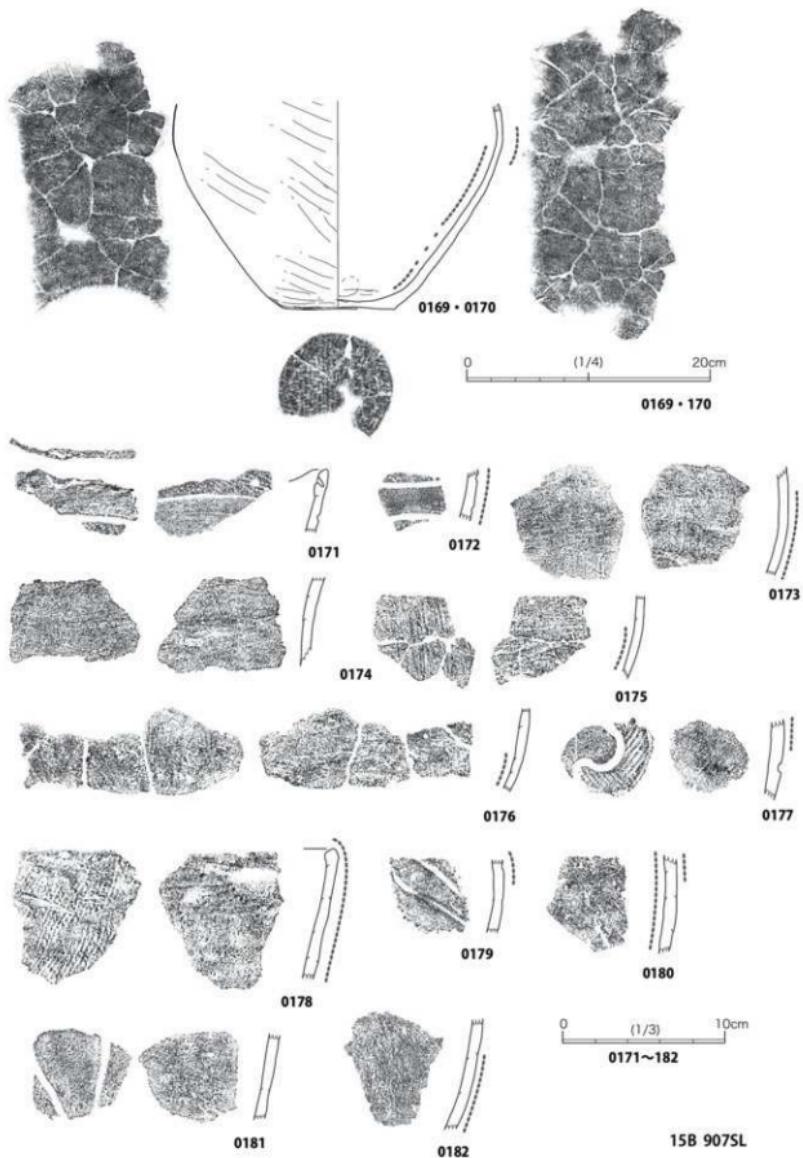
- 保美 II 式 / 蝶塚 B 式 / 大宮式【968・1006・1110  
～1113・1117・1629・1914・2046・2468・  
2470・2524・2746～2748・2993】  
元刈谷式【1118・1682・2749・3104・3183】  
稻荷山式【1123・1124・1285・1301・2994～  
2996】  
縄文時代晚期後半  
【1125～1128・1456・1720】

(2) 浅鉢

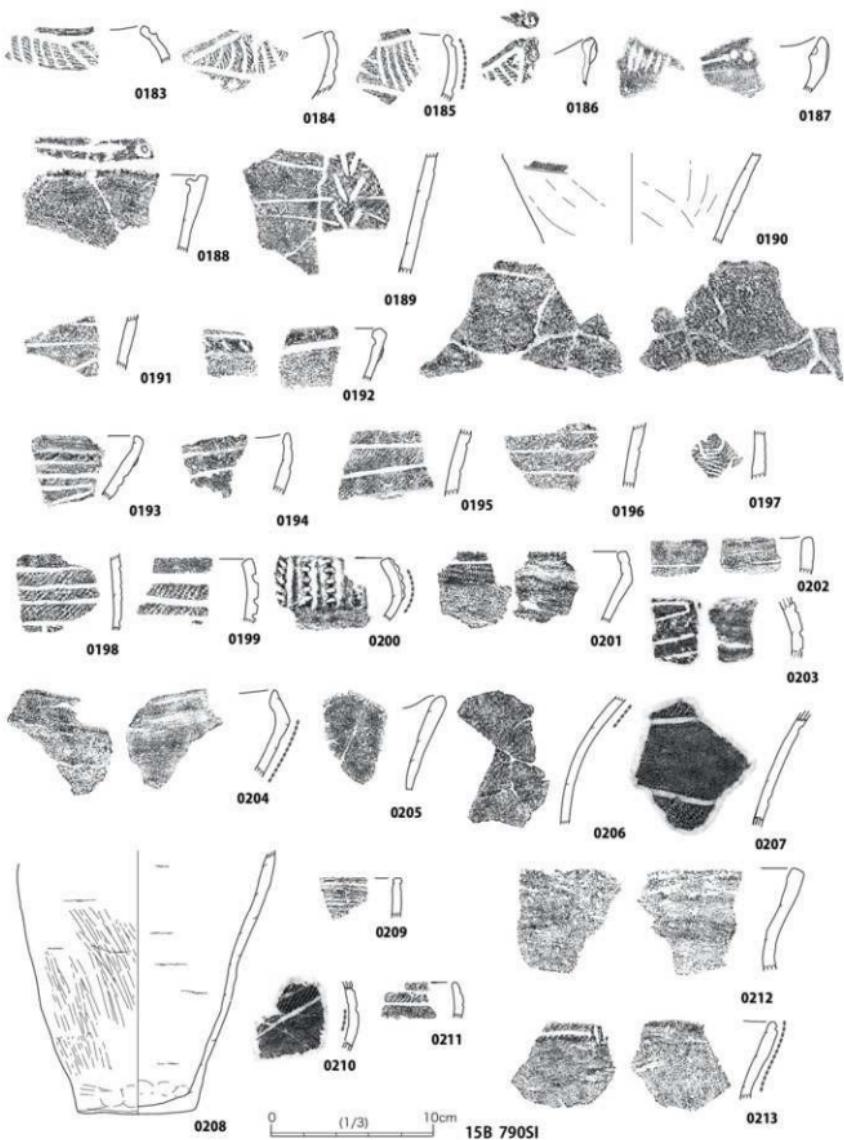
- 縄文時代後期中葉前半  
八王子式 / 加曾利 B1 式【146・242・334・890・  
2087】  
縄文時代後期中葉後半  
加曾利 B2 式～B3 式併行【2406】  
縄文時代晚期前半  
安行 3a～3b 式（異系統）【1690】  
大洞 BC 式（異系統）【1137】



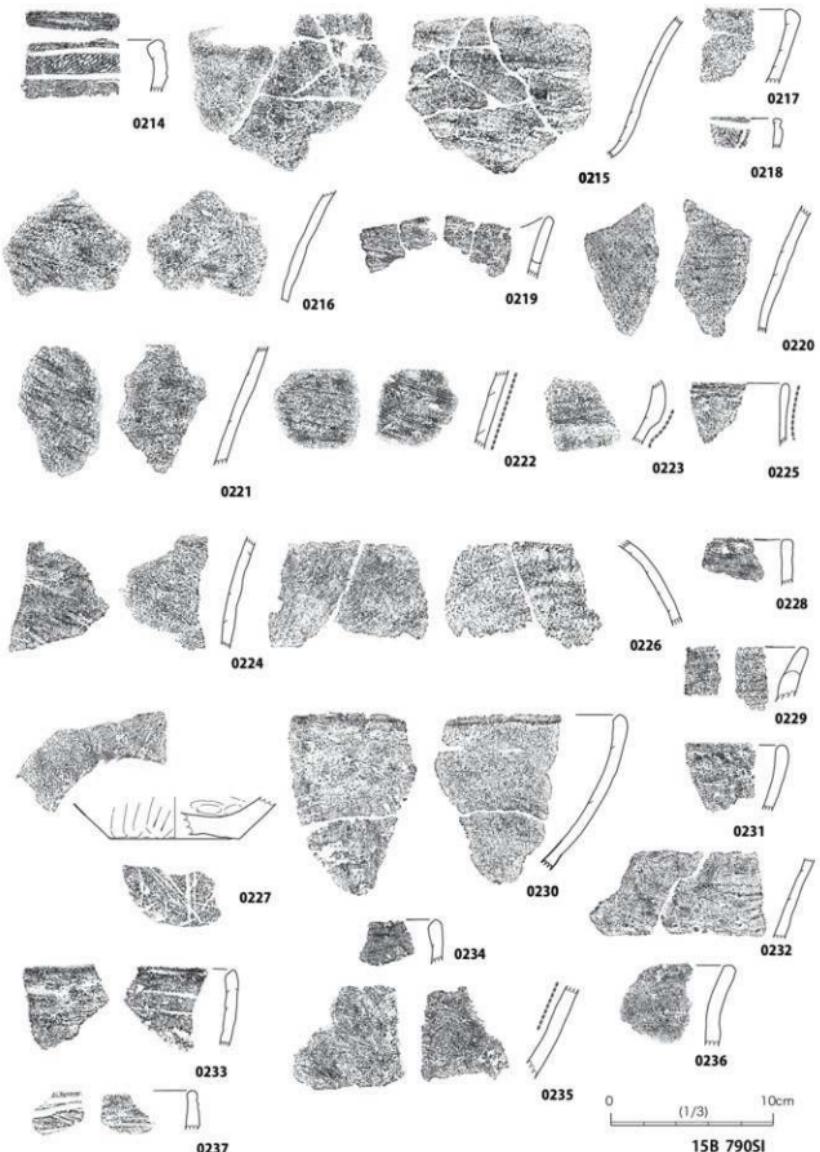
第 108 図 788SI 出土土器 (3)



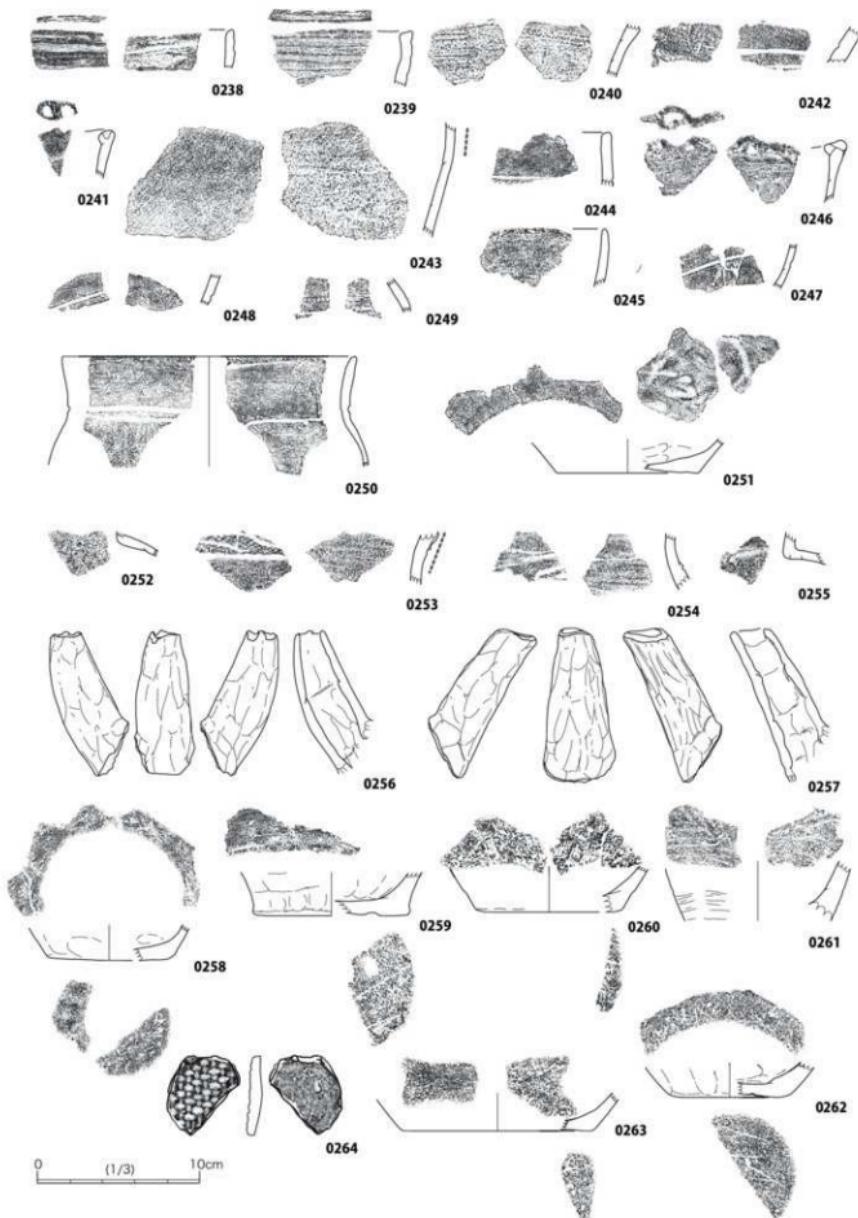
第109図 788SI 出土器(4)



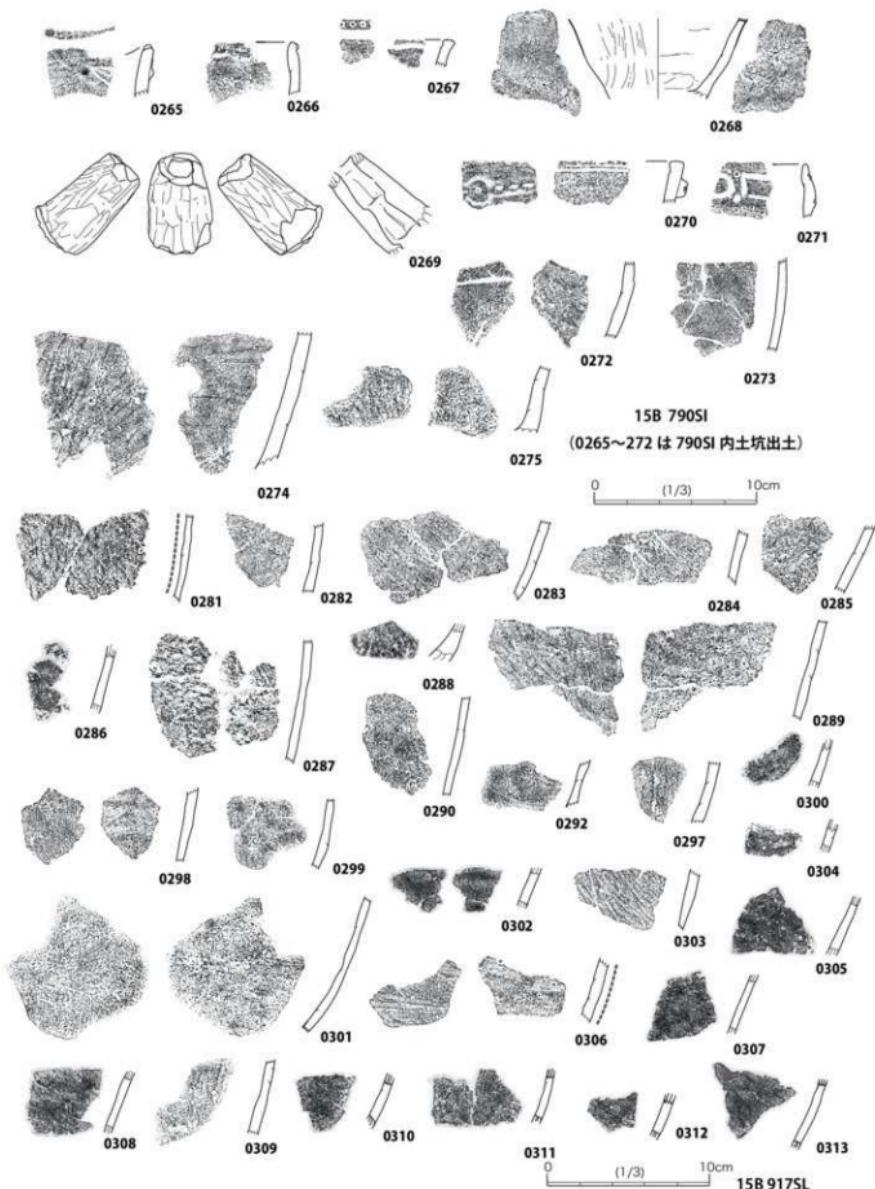
第110図 790SI出土土器(1)



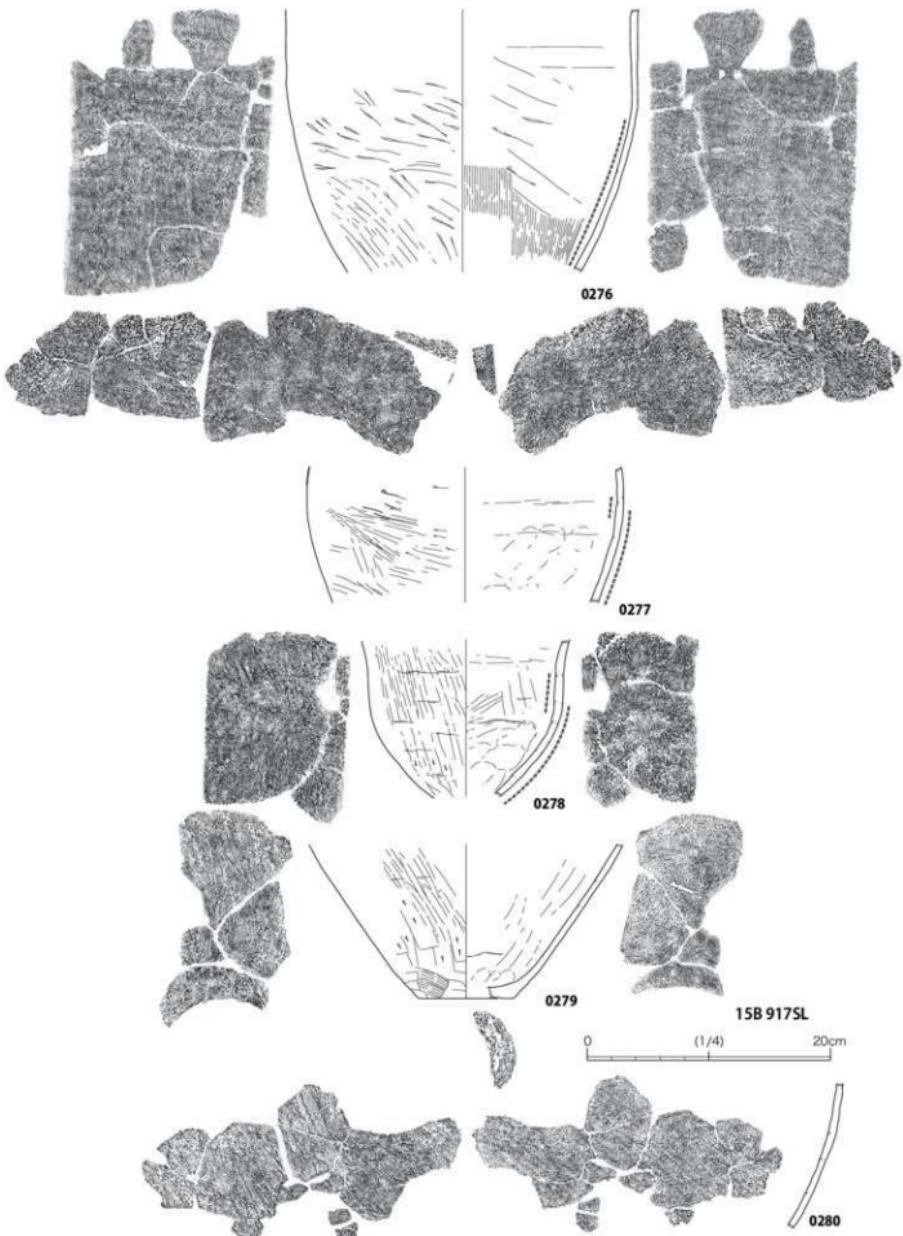
第111図 790SI出土土器(2)



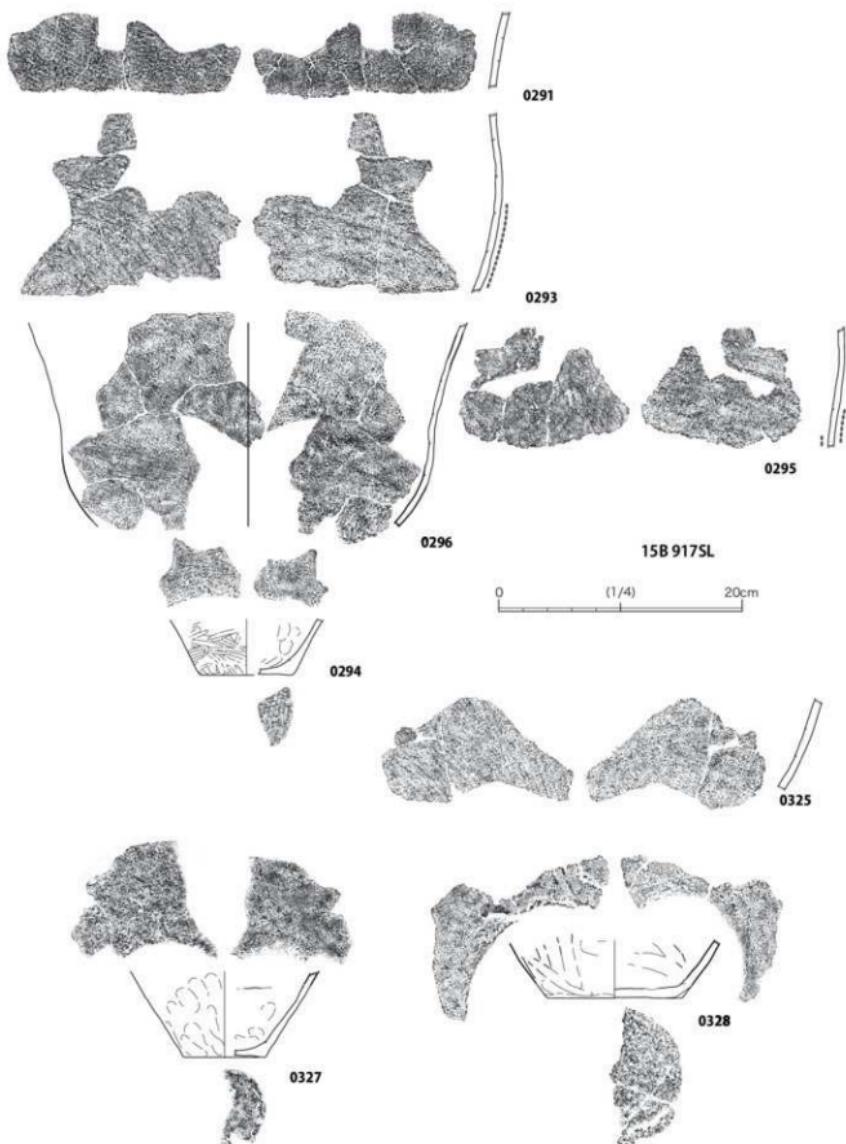
第 112 図 790SI 出土土器 (3)



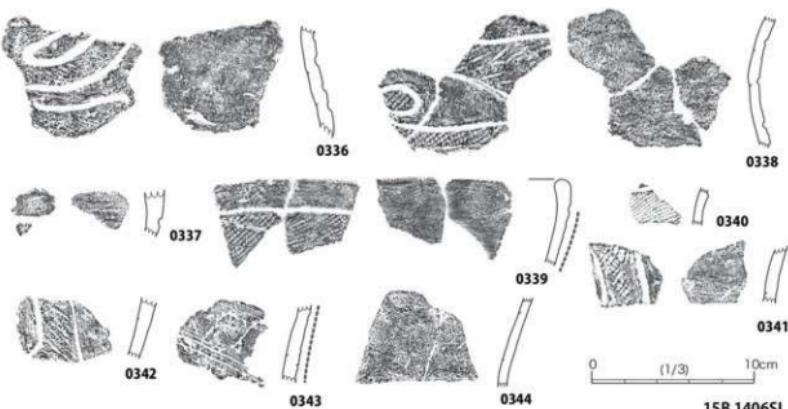
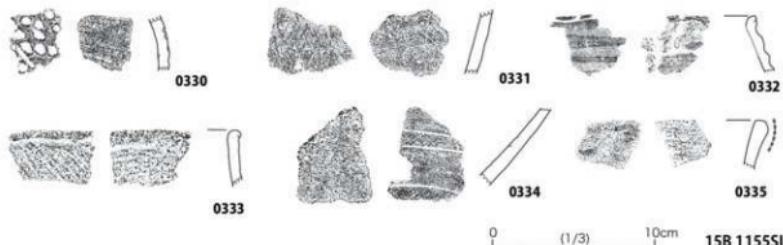
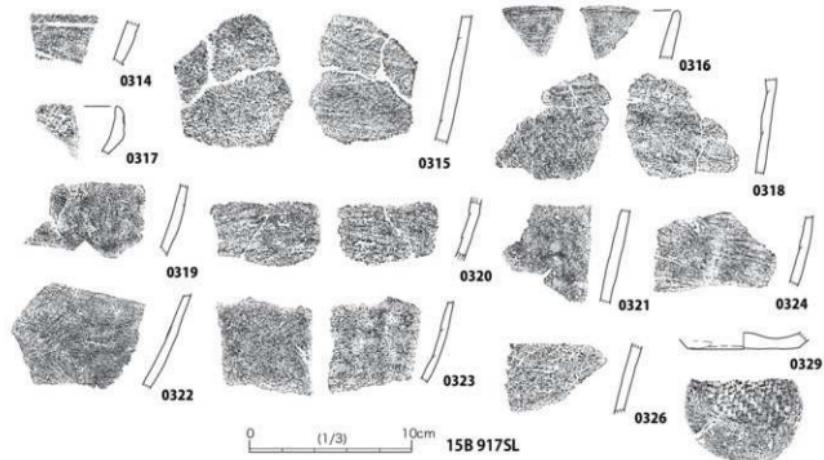
第 113 図 790SI 出土土器 (4)



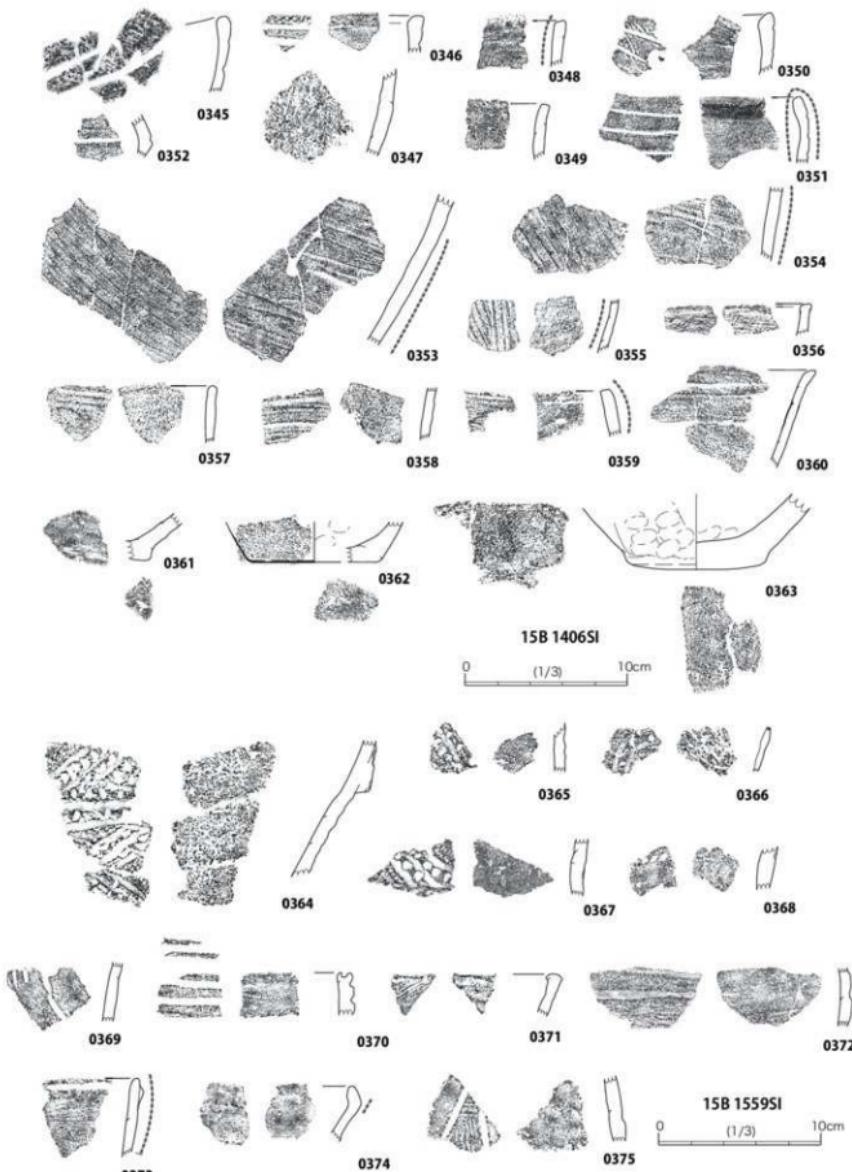
第114図 790SI出土土器(5)



第115図 790SI出土土器(6)



第 116 図 790SI・1155SI・1406SI 出土土器



第117図 1406SI・1559SI出土土器

樅原文様（異系統）【1136】

(3) 壺もしくは注口土器

中津・称名寺式（壺形）【811】

福田K2式【632・2187・2543・3061】

八王子式～西北出式（八王子1式・2式）【803・  
1589・1591・1792・2088・2383・2792】

鶴塚K2式【1668・3057・3063】

宮滝式（古）【1147】

伊川津式 / 神谷沢式 / 寺津下層式【990・1448】

痛付土器（異系統）【1142～1144】

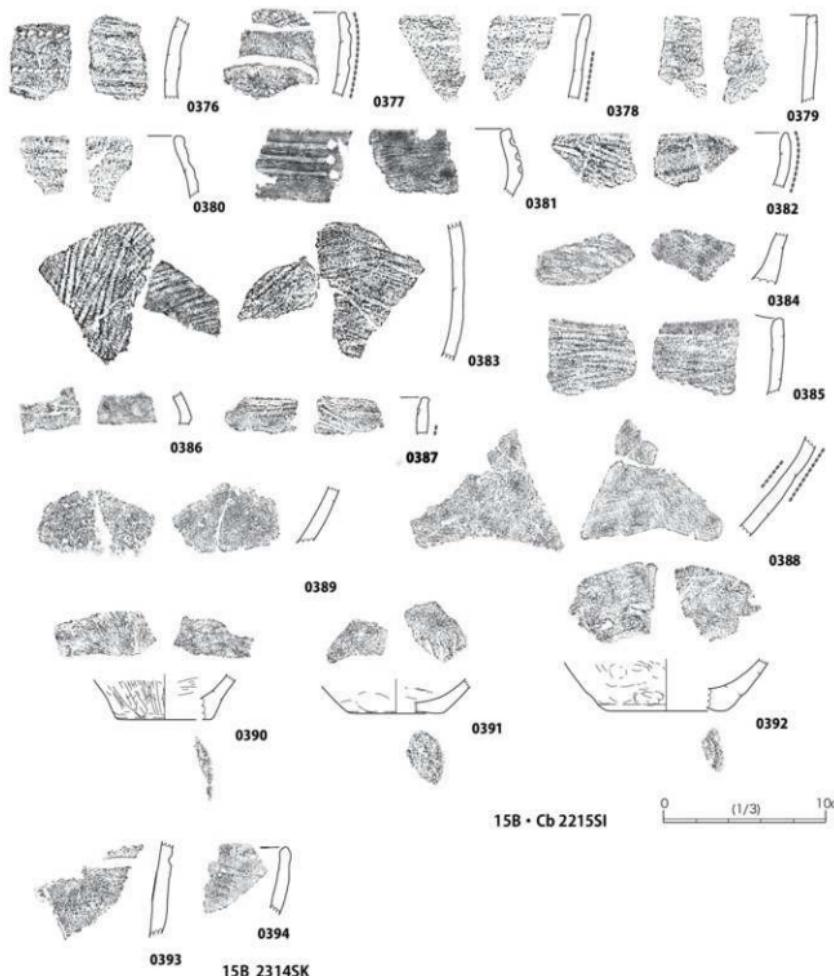
(4) 台付鉢

縄文時代中期後半【74・1194・2551】

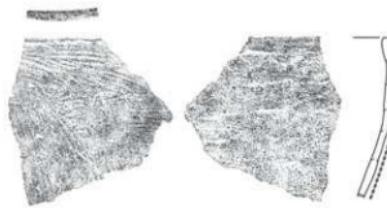
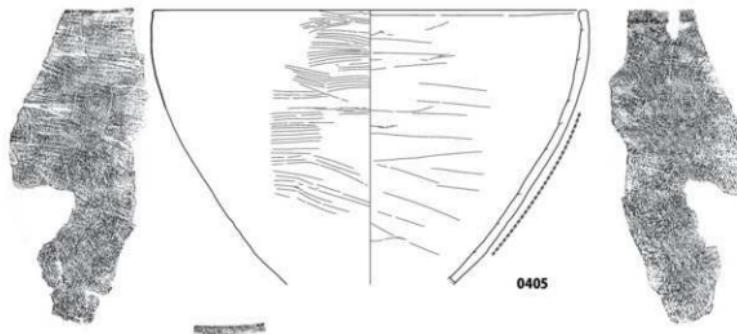
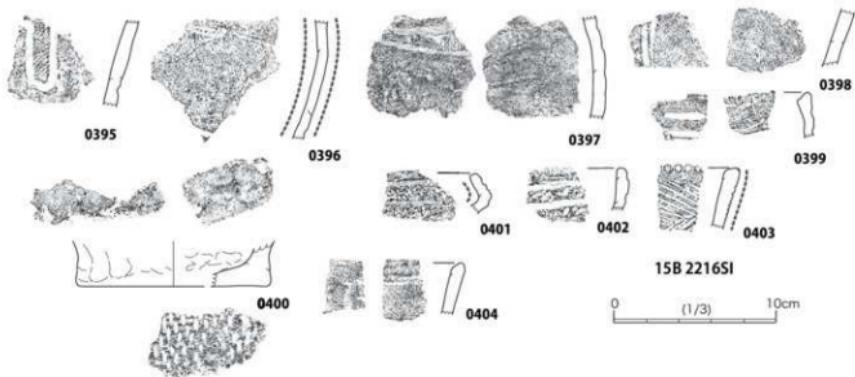
このうち、2551は器台の可能性もある。

(5) 鉗手土器

縄文時代中期後半【2804】



第118図 2215SI出土土器



AMS 実施



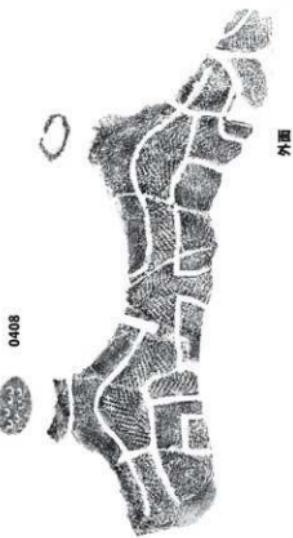
15B 2309SK  
0407 AMS 実施

第119図 2216SI出土土器(1)

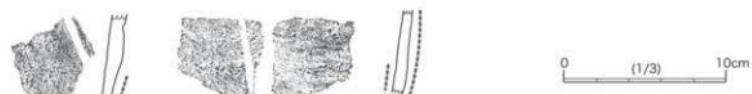
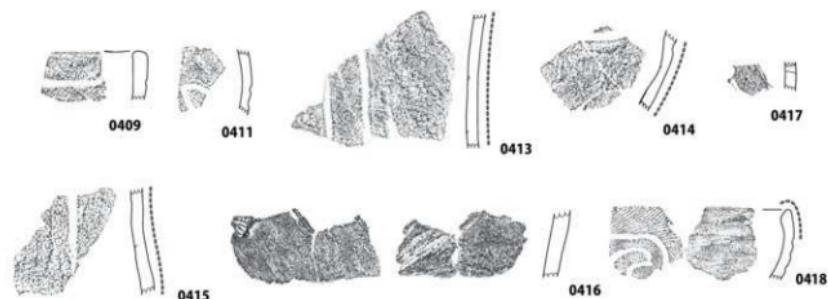
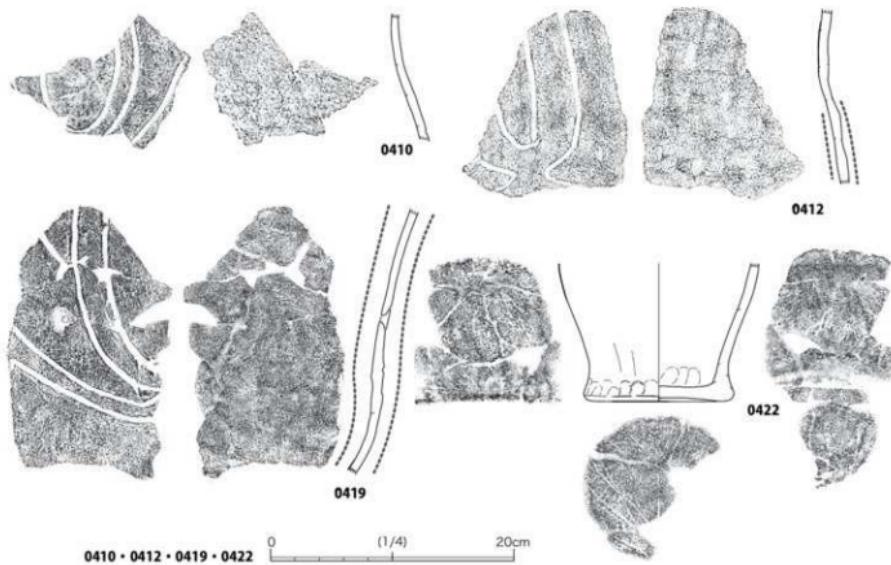


20cm  
(1/4)

15B 23195L

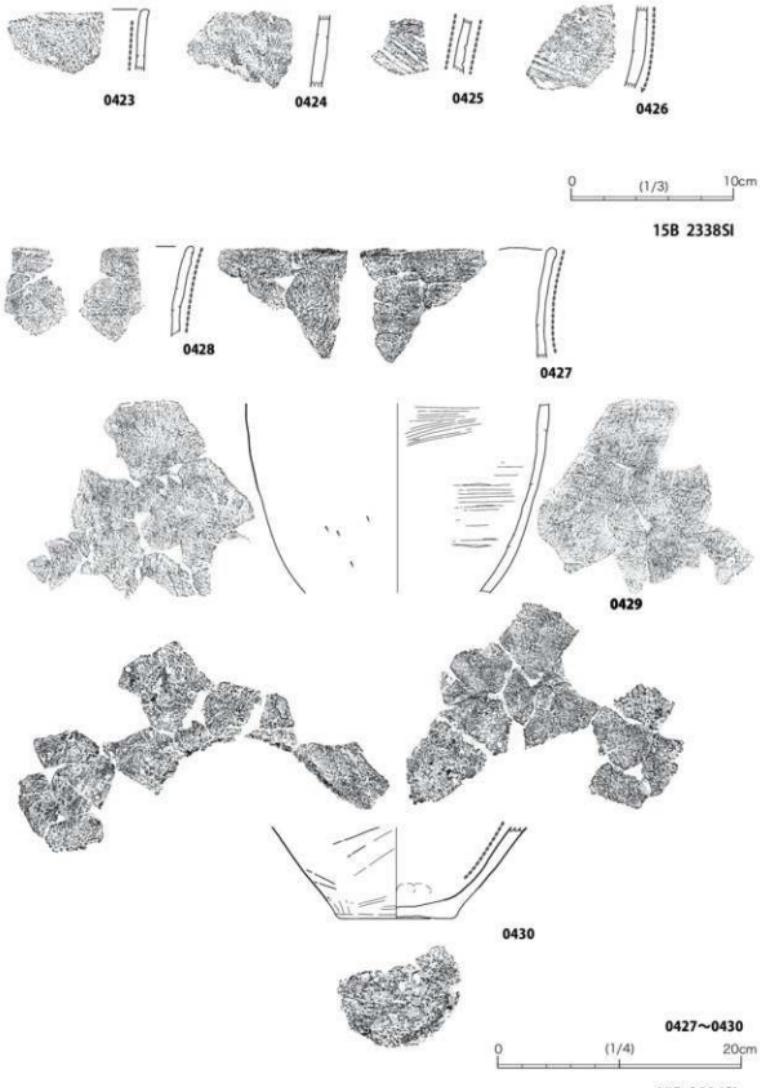


第120図 2216SI出土土器(2)

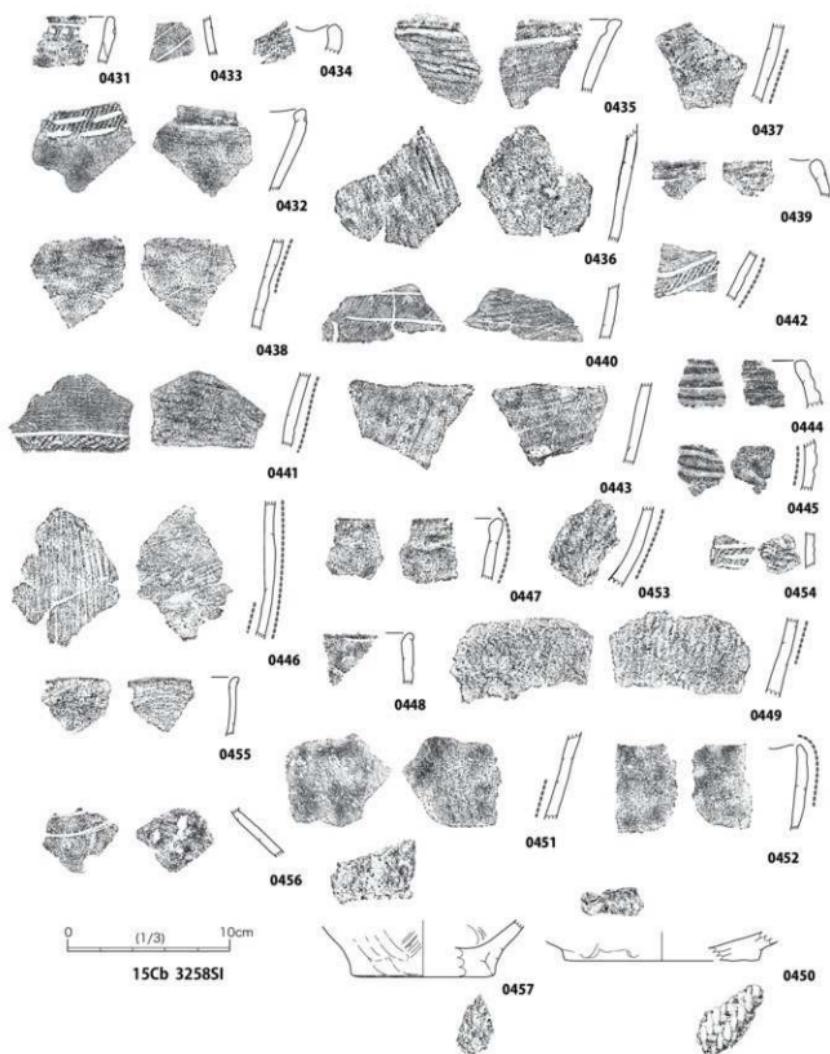


158 23195L

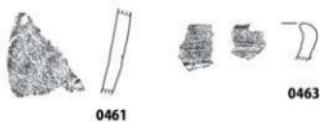
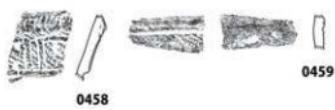
第 121 図 2216SI 出土土器 (3)



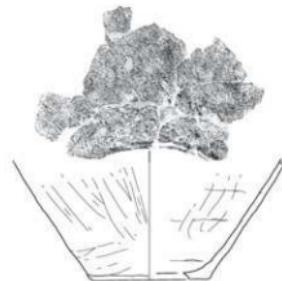
第 122 図 2338SI・2204SI 出土土器



第123図 3258SI出土土器

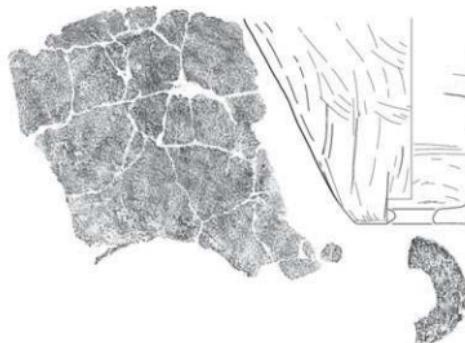


0 (1/3) 10cm



0 (1/4) 20cm

15Cb 3294SK



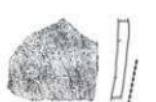
0 (1/4) 20cm

15Cb 3294SK



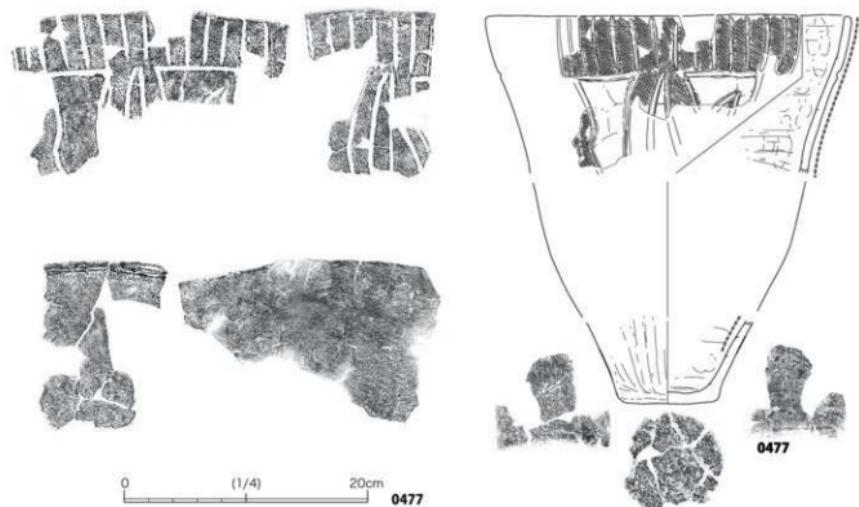
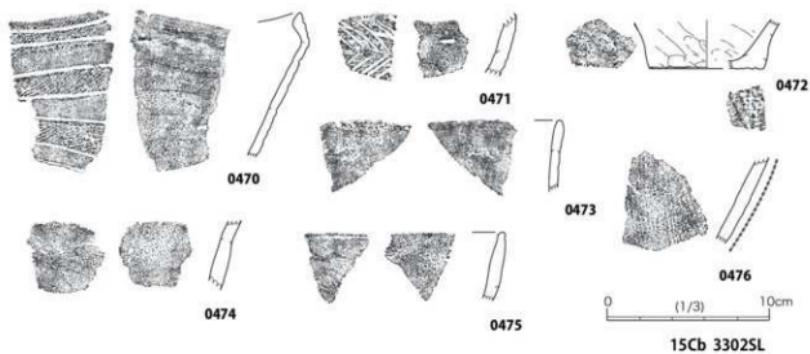
15Cb 3628SK

0 (1/3) 10cm

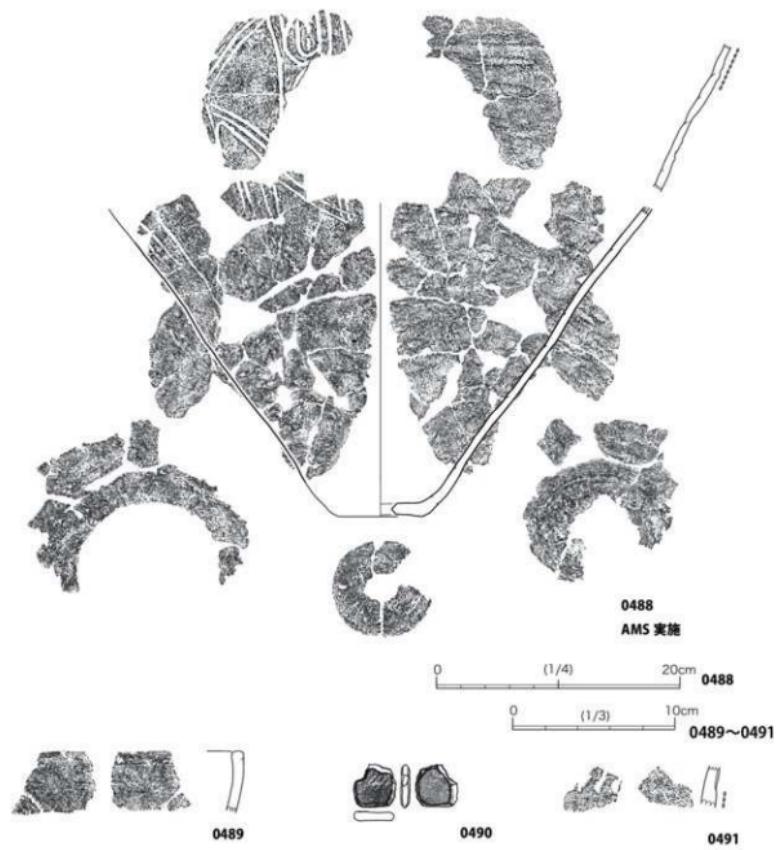
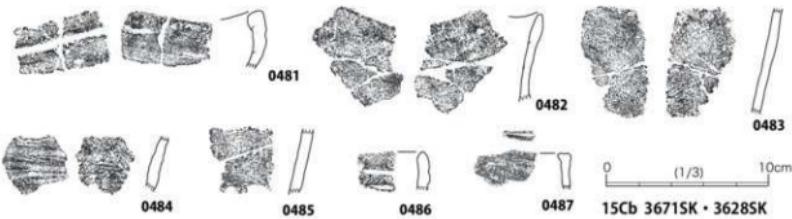


15Cb 4150SK • 4170SK

第124図 3258SI・4150SI出土土器



第125図 4293SI・4299SI出土土器



第 126 図 4310SI・565SK 出土土器

#### (6) 穿孔のある土器片・加工円版

加工円版は今回の調査で14点確認した。中央に穿孔が認められるものが多い。穿孔部分で欠失しているものもあり、補修孔のある土器片との鑑別が難しい場合もあり、土製品ではなく土器のなかで報告している。ほぼすべて縄文時代後期に属するものと考えられる。

#### (7) 小結

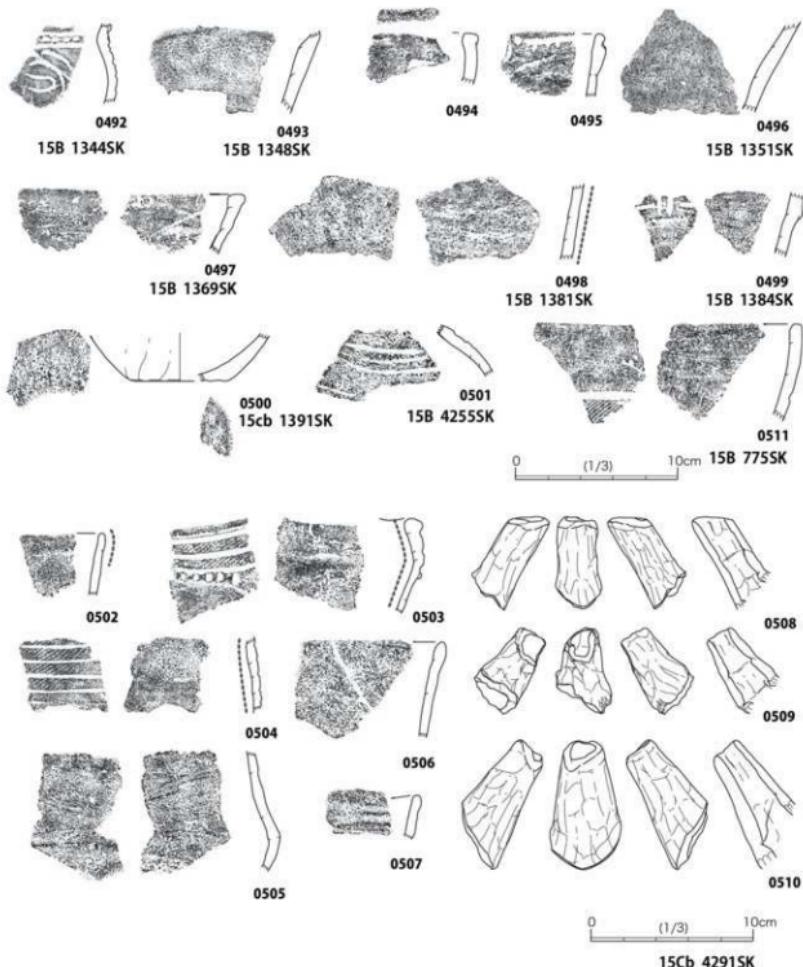
以上のように、縄文土器は早期・中期・後期・晩

期が認められるものの、最もまとまって認めらるる時期は、後期であり、特に後期初頭～前葉と、後期中葉後半～後葉の時期に集中が認められるようである。中でも遺構出土資料で特筆されるものがあり、以下にその特徴を述べておく。

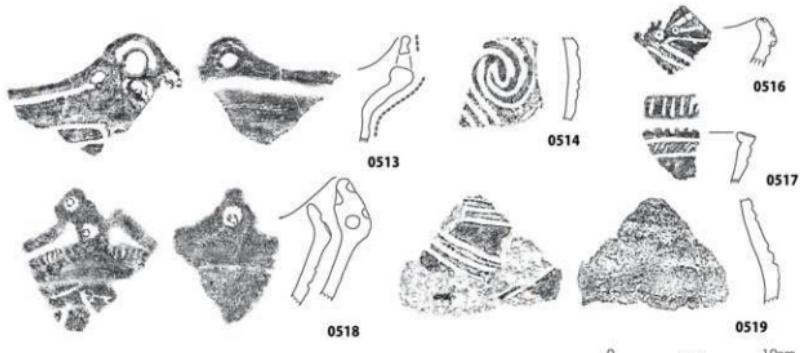
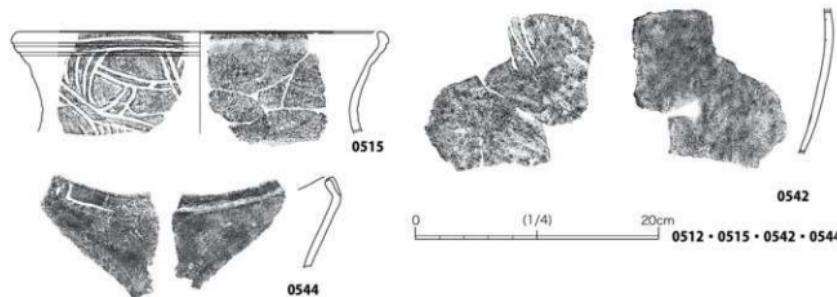
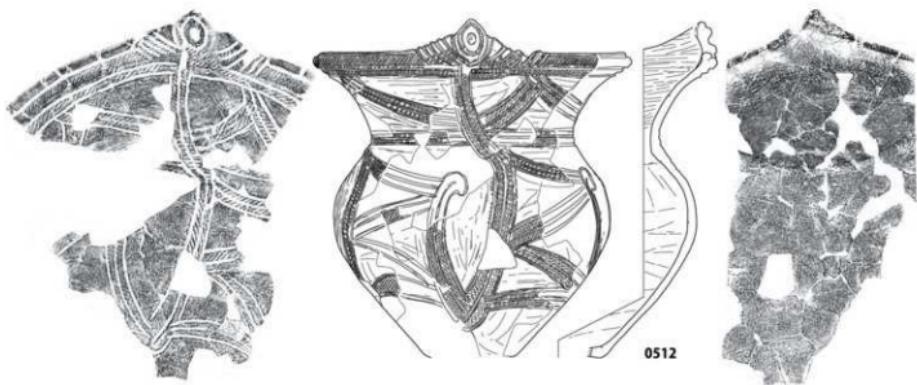
## 2 縄文土器（主要遺構出土遺物の紹介）

### (1) 3893SI 出土土器（0001～0075）

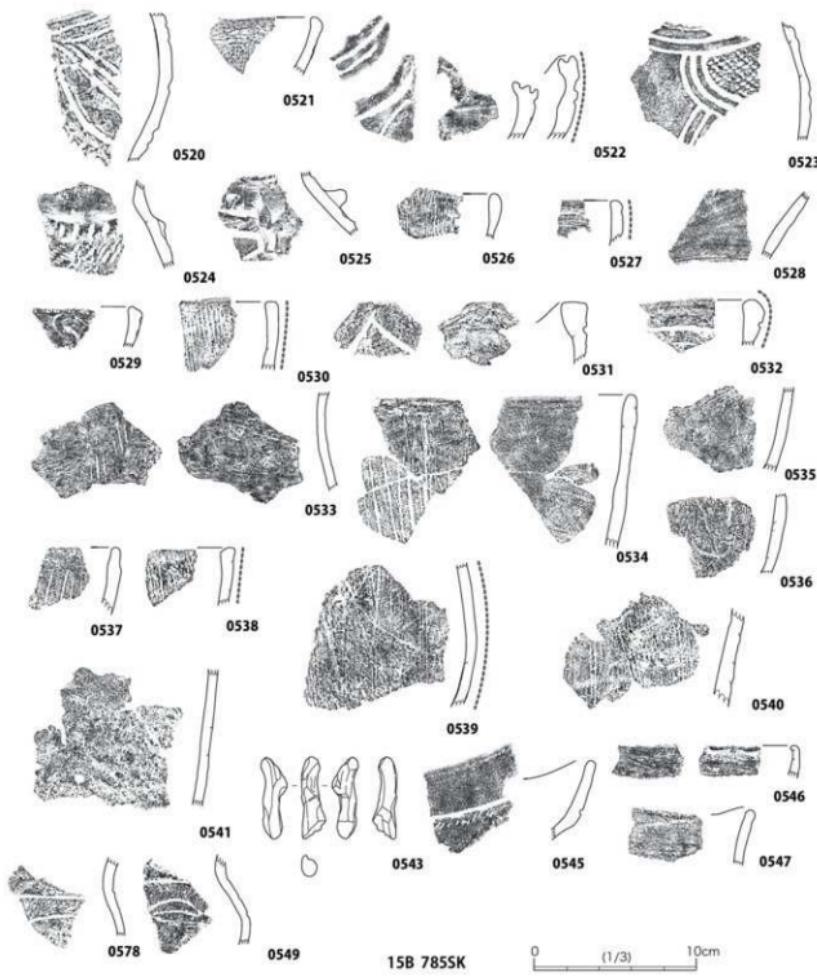
竪穴建物跡内に一括廃棄されたと考えられる、良



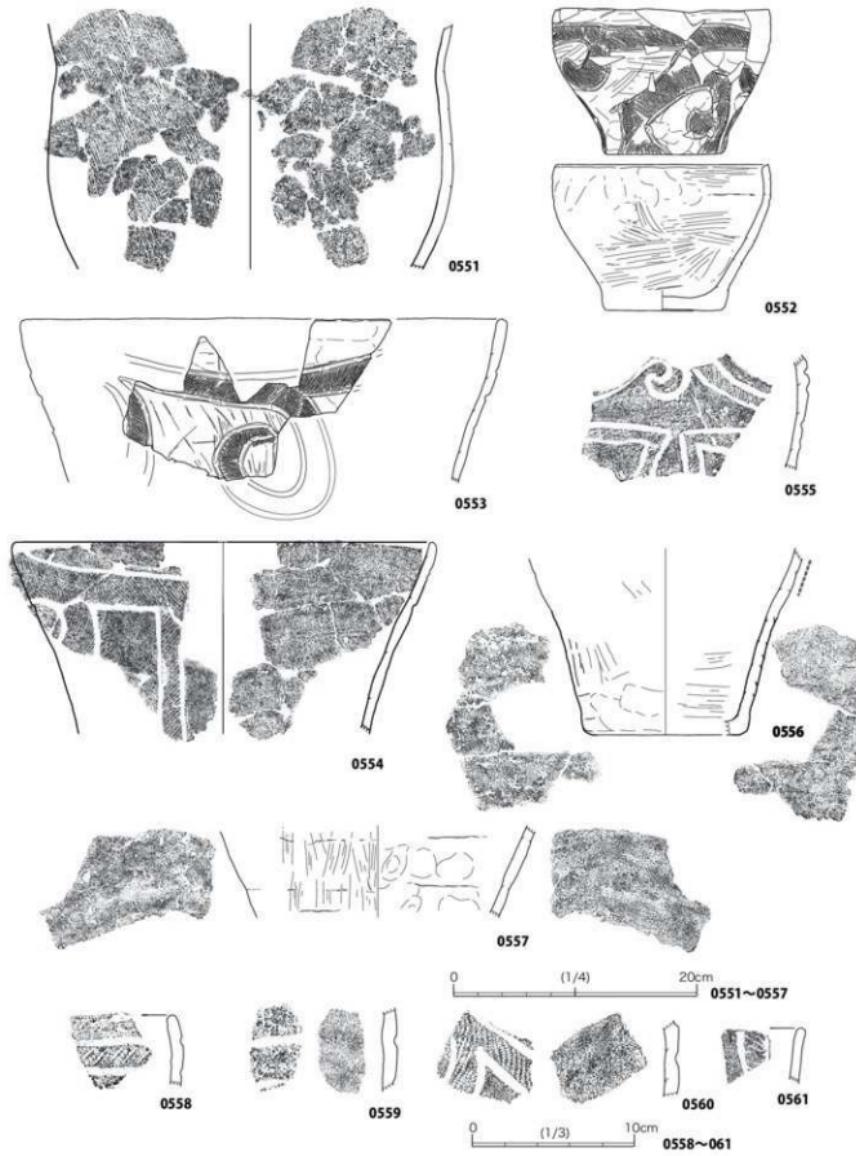
第127図 4291SK他出土土器



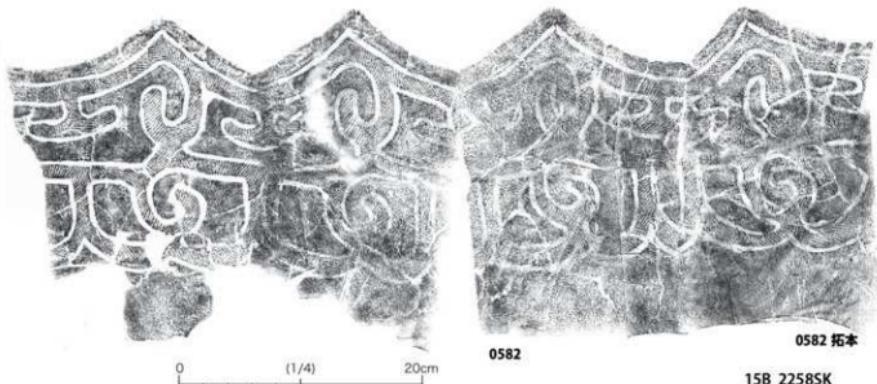
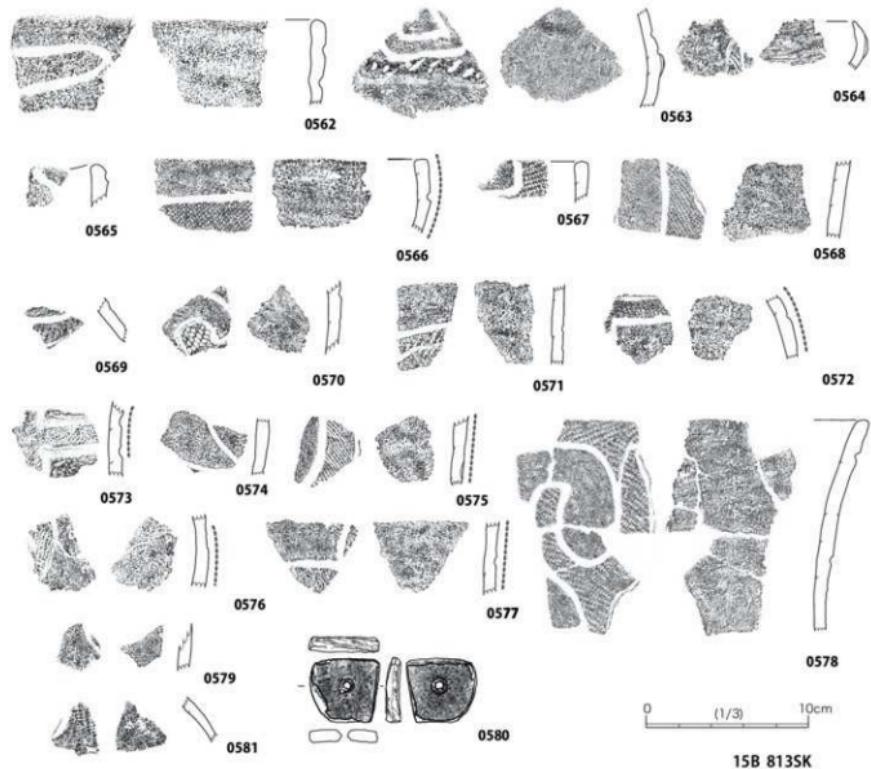
第128図 785SK出土土器(1)



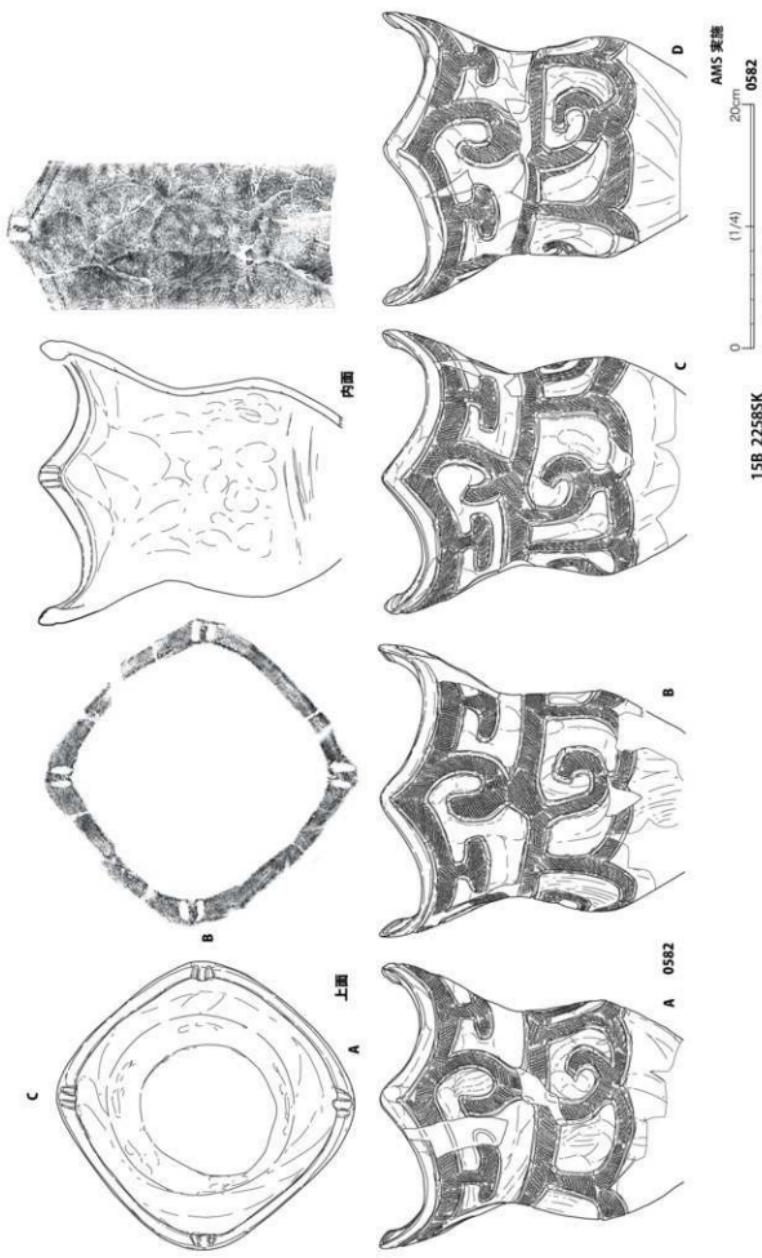
第129図 785SK出土土器(2)



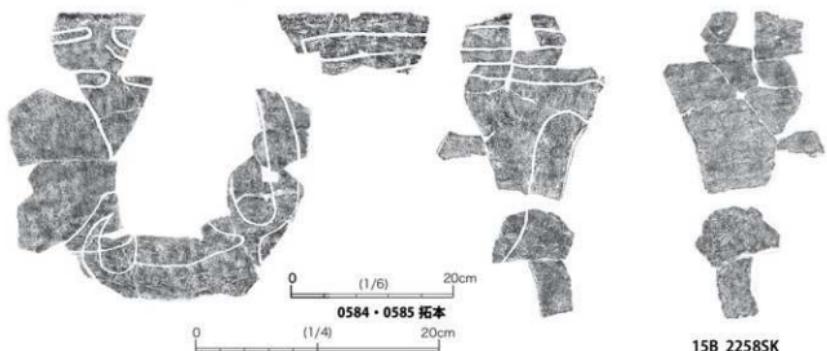
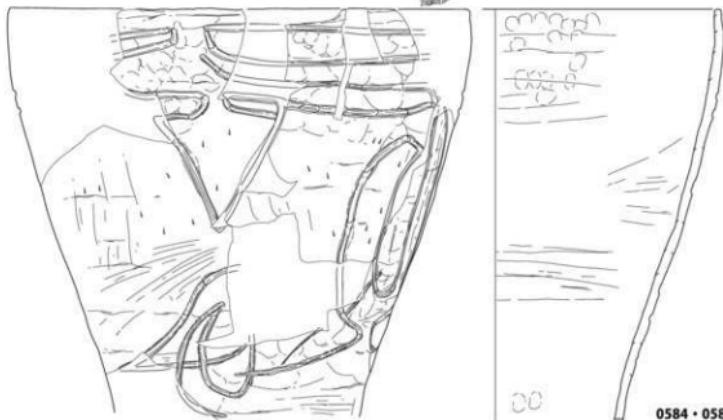
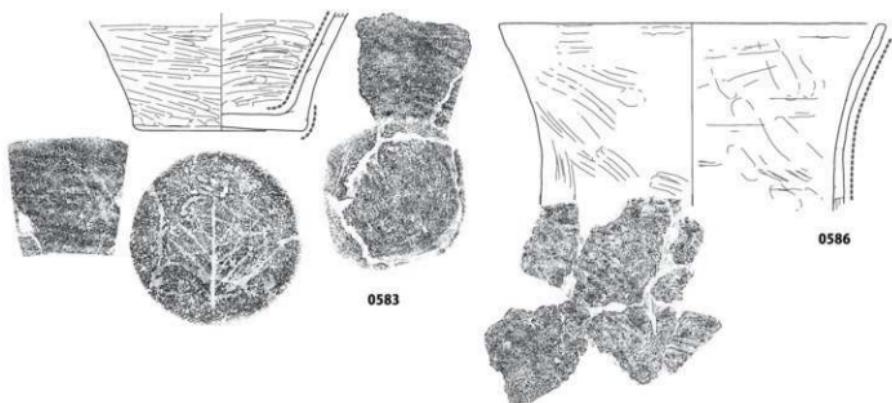
第 130 図 813SK 出土土器



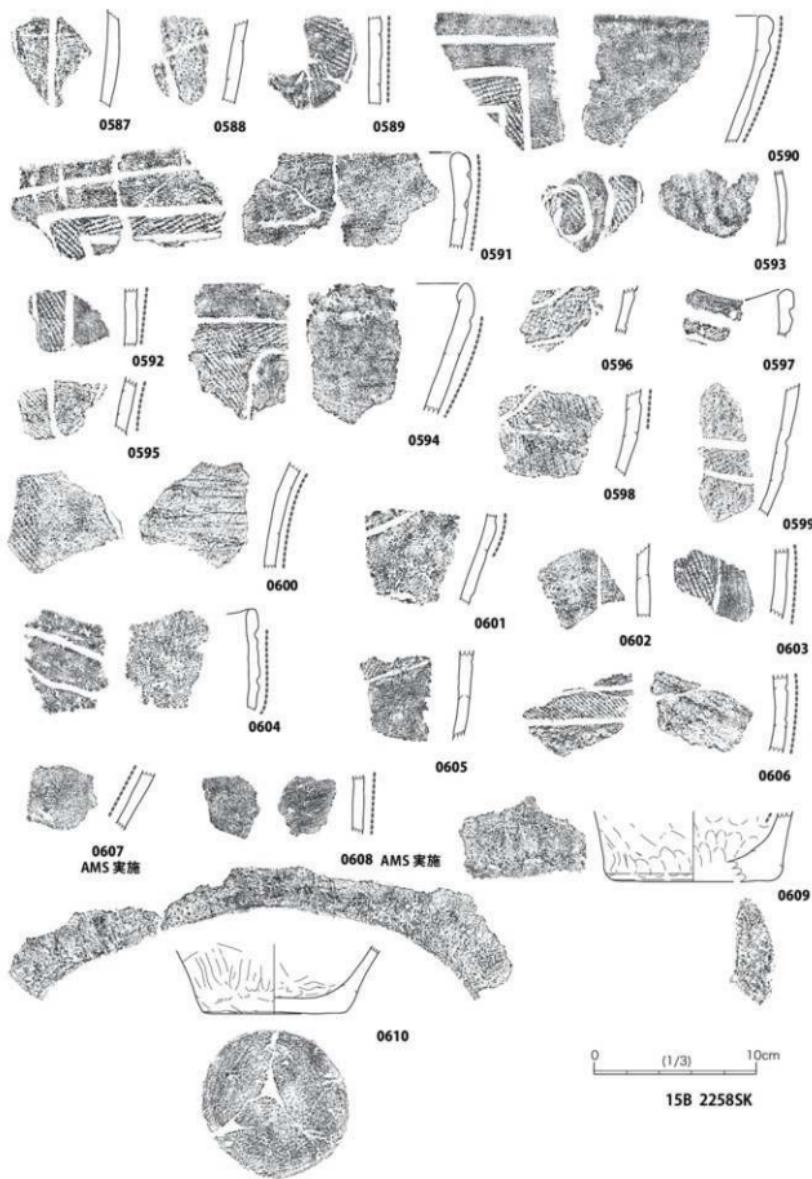
第131図 813SK・2258SK出土土器



第132図 2258SK出土土器(1)



第133図 2258SK出土土器(2)

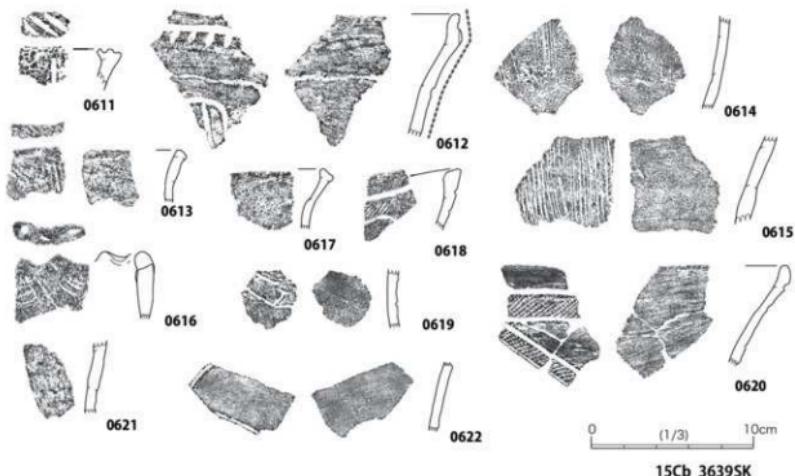


第 134 図 2258SK 出土土器 (3)

好な資料群である。ごく若干の取組式を除いて(0004)など、神明式に属する土器が多数出土している。0001は口縁部に透かし状の貼付装飾が施されたもので、最大径は胴部下半で認められるものである。0005は沈線区画内の垂下沈線が結節繩文で表現されており、親田式に比定される。このように、当地の縄文時代中期後半の土器群は、東海地域の土器を基本としながら、南信州系の土器要素が垣間見られる状況といえる。

#### (2) 7885I・7905I 出土土器 (0097 ~ 0335)

中型巻貝調整の多出。

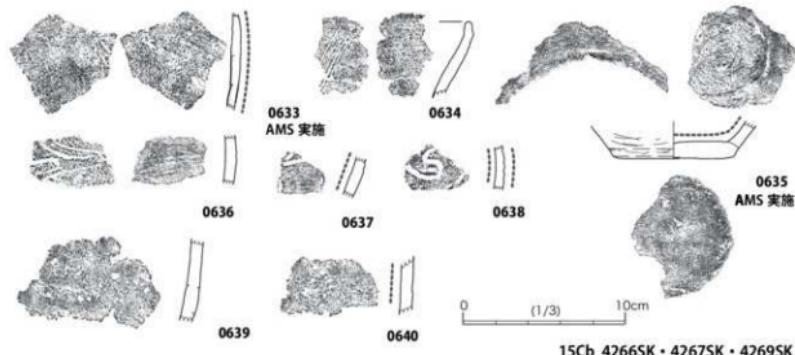


#### (3) 2319SL 出土土器 (0408 ~ 0422)

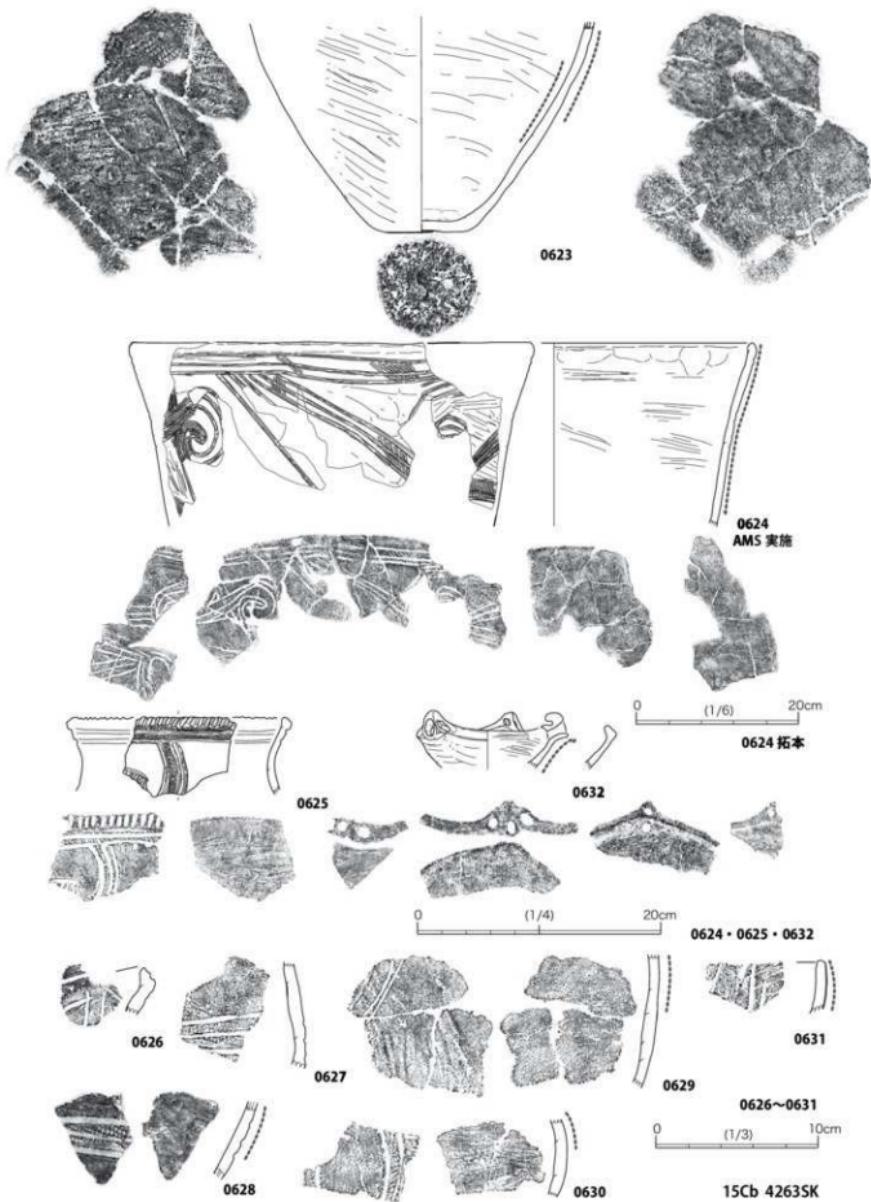
中津・称名寺式の段階の一括資料である。0408は、口縁部のみではあるが、全周する資料であり、本資料群を代表する土器である。4単位の波状口縁で、波頂部は杯状あるいは筒状となっており、それそれが対向している。口縁の上面觀は隅丸方形状を呈しており、杯状の上面には竹管状工具による刺突列があり。

#### (4) 0785SK 出土土器 (0512 ~ 0549)

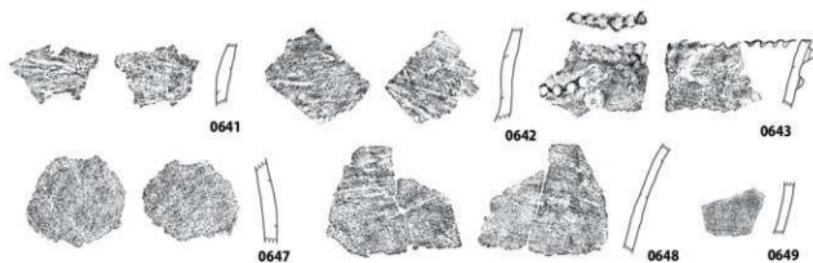
本遺構出土土器のなかで最も良好な資料は0512の福田K2式である。口縁端部には同心円文様の波頂



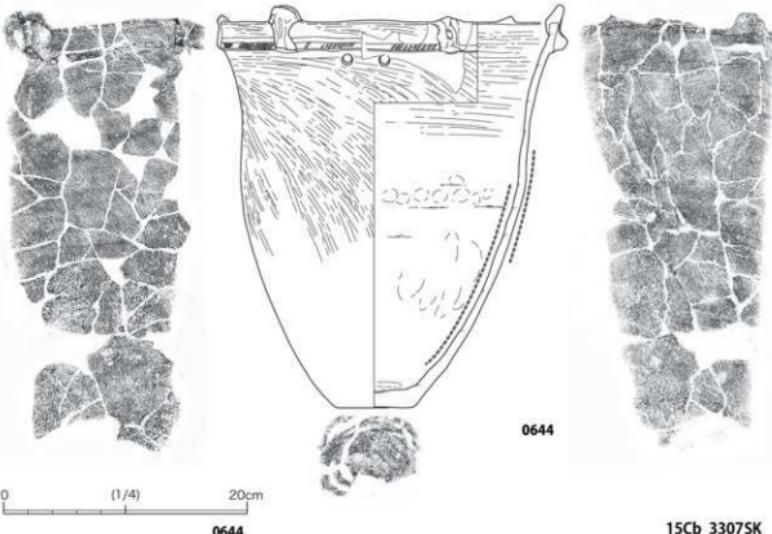
第135図 3639SK他出土土器



第136図 4263SK出土土器

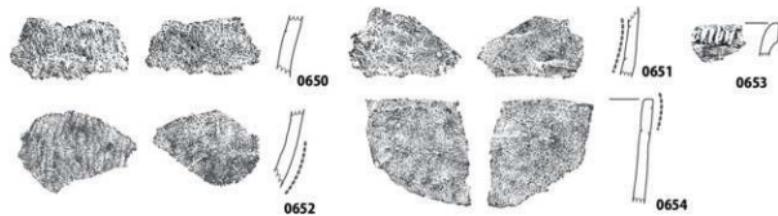


0 (1/3) 10cm  
0641~0649

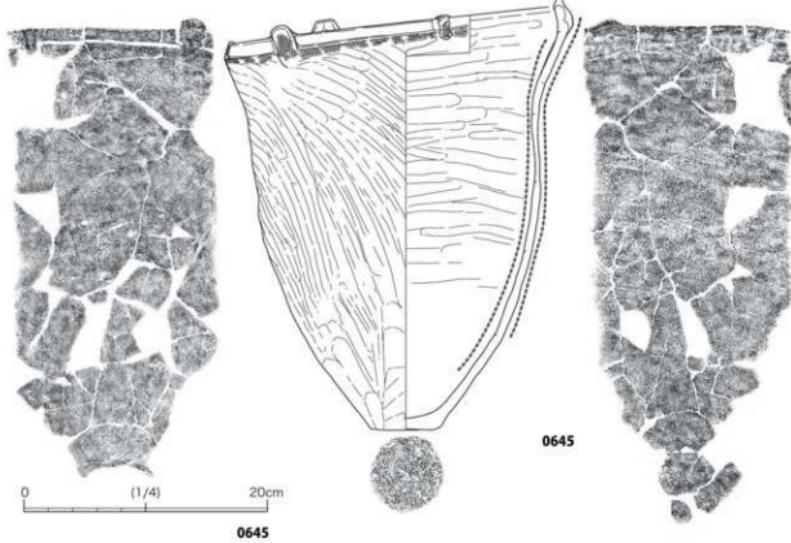


15Cb 3307SK

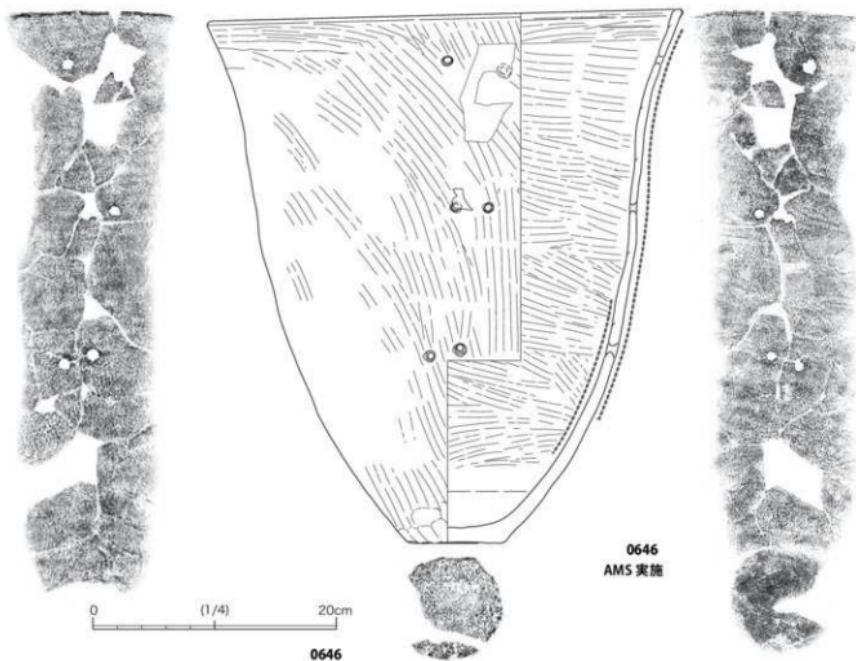
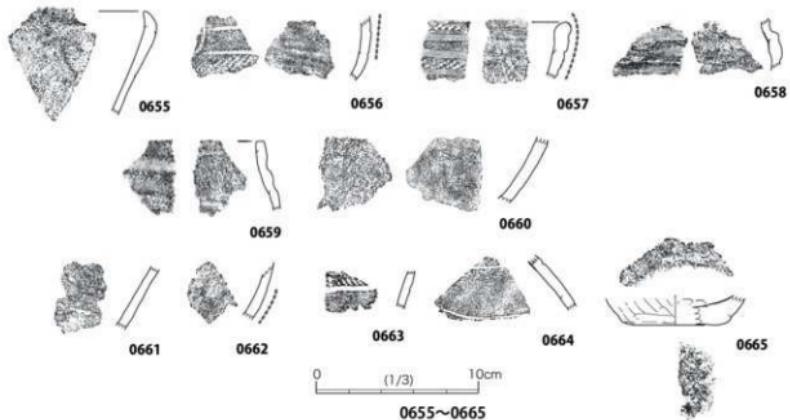
第137図 3307SK出土土器(1)



0 (1/3) 10cm  
0650~0654

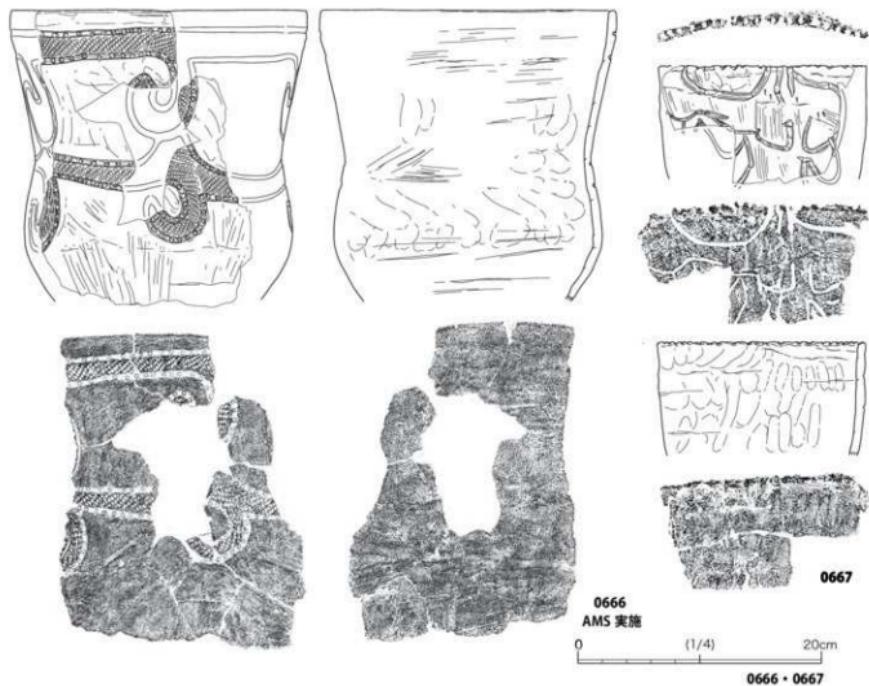


第 138 図 3307SK 出土土器 (2)

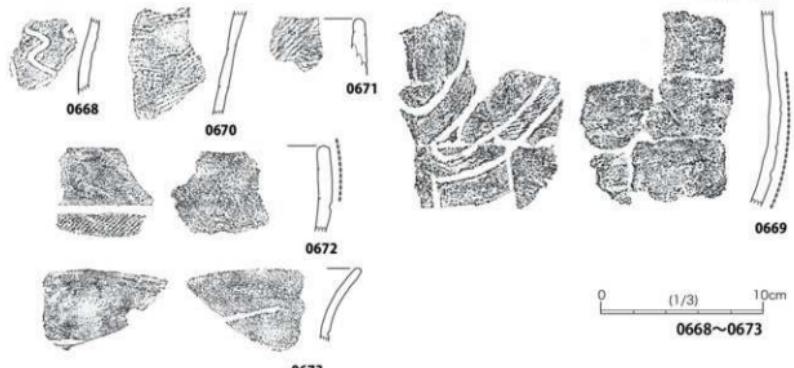


第 139 図 3307SK 出土土器 (3)

15Cb 3307SK



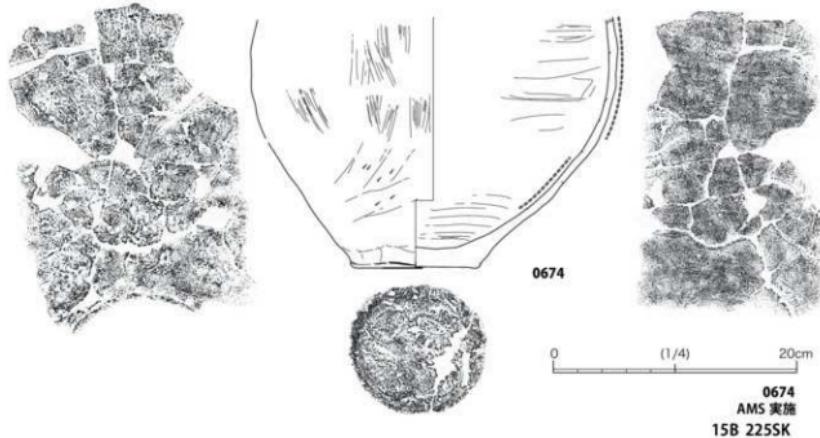
0 0 (1/4) 20cm  
0666 • 0667



0 0 (1/3) 10cm  
0668~0673

15B 1560SK

第140図 1560SK出土土器



第141図 225SK出土土器

部が認められ、三本沈線とLR充填を単位とする帶縄文が口縁端部、頸部、胸部に渡って展開しているが、胸部のくびれを境として、その上下それぞれで文様帶の展開が認められる。波頂部のある口縁端部から胴部まで帶縄文が貫いており、先端は鉤の手状になって、いわゆる海馬文の帶化したものが認められる（千葉・曾根2008）。横の文様と連なっている。器面表面・内面には筋状の特徴的な調整痕が認められる。報告者が中型巻貝調整と称している一群と考えられる。

#### (5) 0813SK出土土器 (0551～0561)

大型土坑内から一括出土した資料群で、鉢0552は全形が窺えられる好資料である。口縁端部を無文としてやや下位から沈線区角内に縄文RLが充填された文様帯が展開するものである。文様は底部まで達しているものの、J字状の構図はやくずれている様相を呈する。中津・称名寺式の新相であろう。

#### (6) 225SK出土土器 (0582～0610)

袋状土坑内に廃棄された土坑で、中津・称名寺式の良好な一括資料と思われる。の中でも、0582が代表的な土器である。0582は底部は欠失しているものの全周する土器で、波長部に縱方向に二条の短沈線が施された四单位波状で、上面觀は隅丸方形を呈する。表面には沈線区画内に縄文RLが充填された文様帯が胸部中央の括れ部を境として上下に展開する。上は逆T字文とJ字文が交互に展開し、下では垂直方向にリフレクトされた鏡文字状態のJ字文を大きな文様帯が囲んでいる。J字文は波頂部の位置で上下連なっている。本例は、区画のくずれも少なく

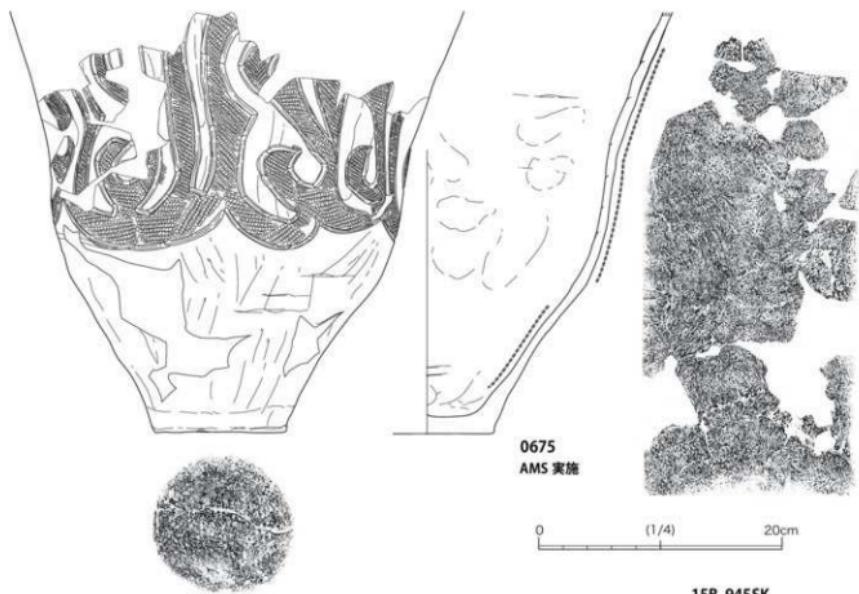
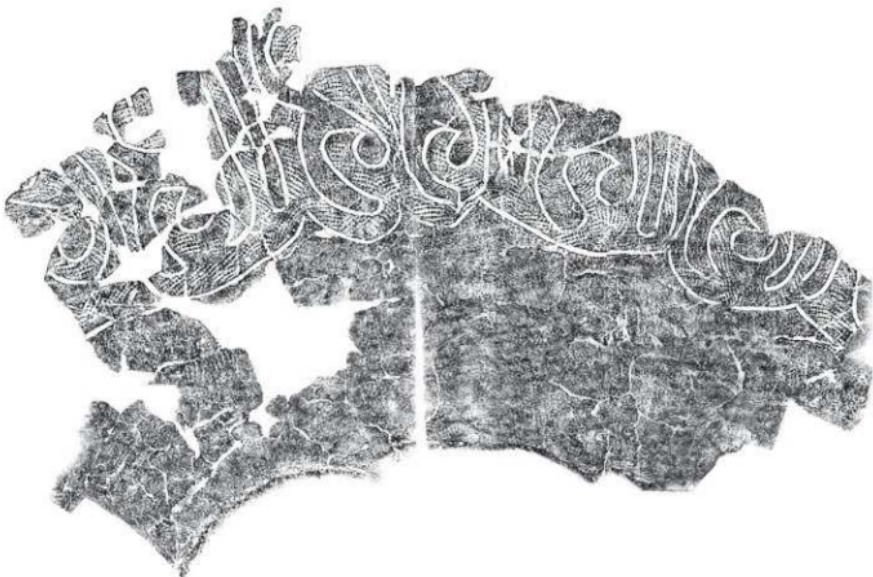
やや時期が遡るものもあるものの、同時に0584・0585のような土器も存在していることから、必ずしも古手になるものではないようである。

#### (7) 0945SK出土土器 (0675)

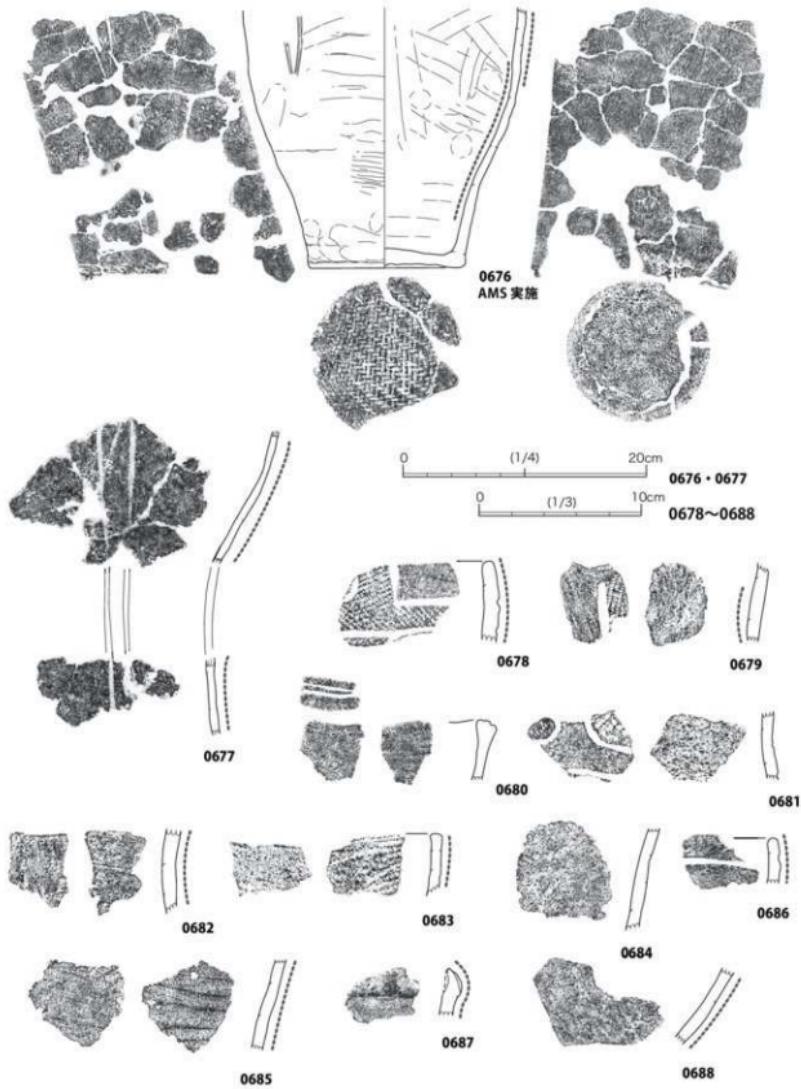
胸部下半から底部が残存しており、胸部中央のくびれよりも上位に文様の展開が認められる。文様は沈線区画内に縄文RLが充填されたもので、くずれたJ字文が下端で連結しながら横方向に展開していく文様構成となっている。底部には編組製品圧痕が認められる。拓本中央付近は1本越え・1本潜り・1本送りの四つ目であるが、上方に向かうに従って、2本越え・2本潜り・2本送りのゴザ目となっている。中津・称名寺式の新相になると考えられる。

#### (8) 3307SK出土土器 (0650～0665)

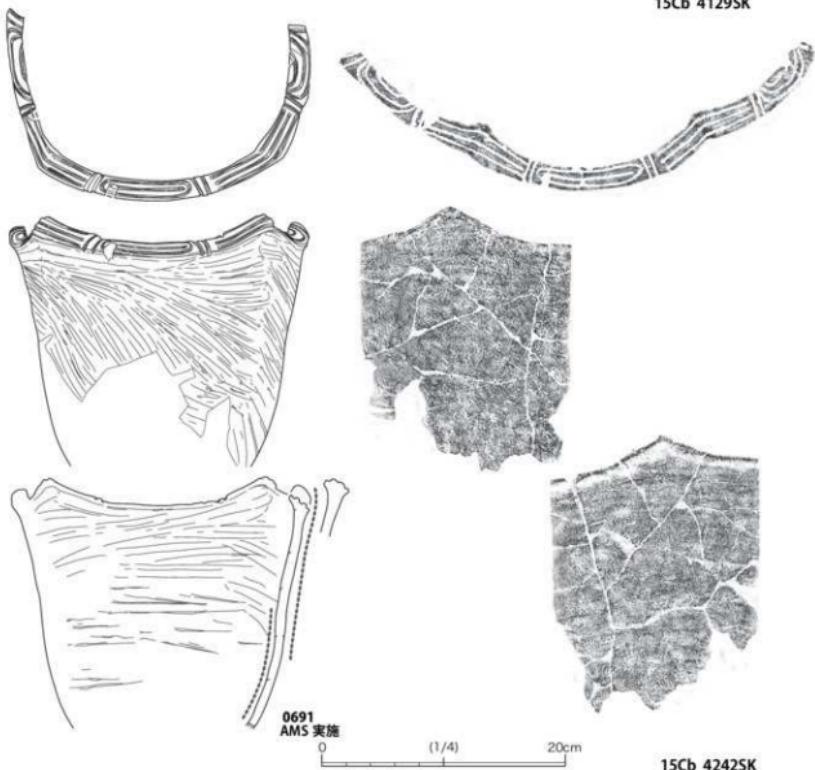
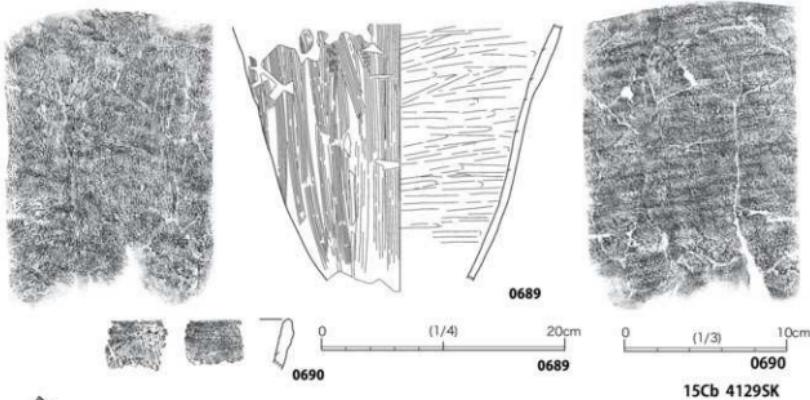
本遺構も貯蔵穴などの大型土坑に一括遺棄された資料群と考えられる。特に、0644・0645・0666はこれらを代表する土器で、いずれも全形を窺うことのできる好資料である。0664は屈折する口縁部に三単位の突起が、さらにその各間に小突起が貼り付けられている。屈折部には縄文LRが施されているが、器面調整は、表・内面ともに報告者の言うところの中型巻貝調整で、外側は斜方向に、内側は横方向に認められる。口縁部の屈曲部分直下には補修孔が認められる。0645も同様の器形・器面調整・装飾が認められるが、縄文はRLが縱方向に短いピッチで施されている。0646は外反する無文の深鉢で、器面には中型巻貝調整が全面に認められる。補修孔が同一列に3ヶ所施されていることが、特徴的である。以上は、



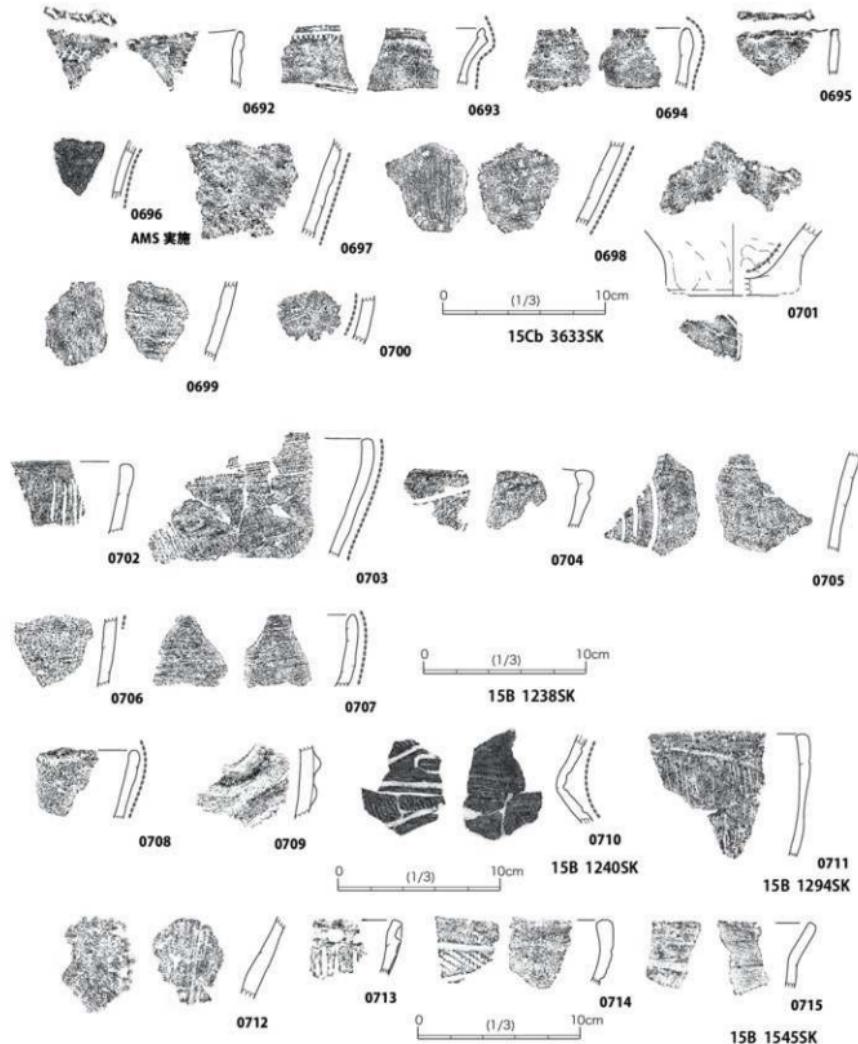
第 142 図 945SK 出土土器 (1)



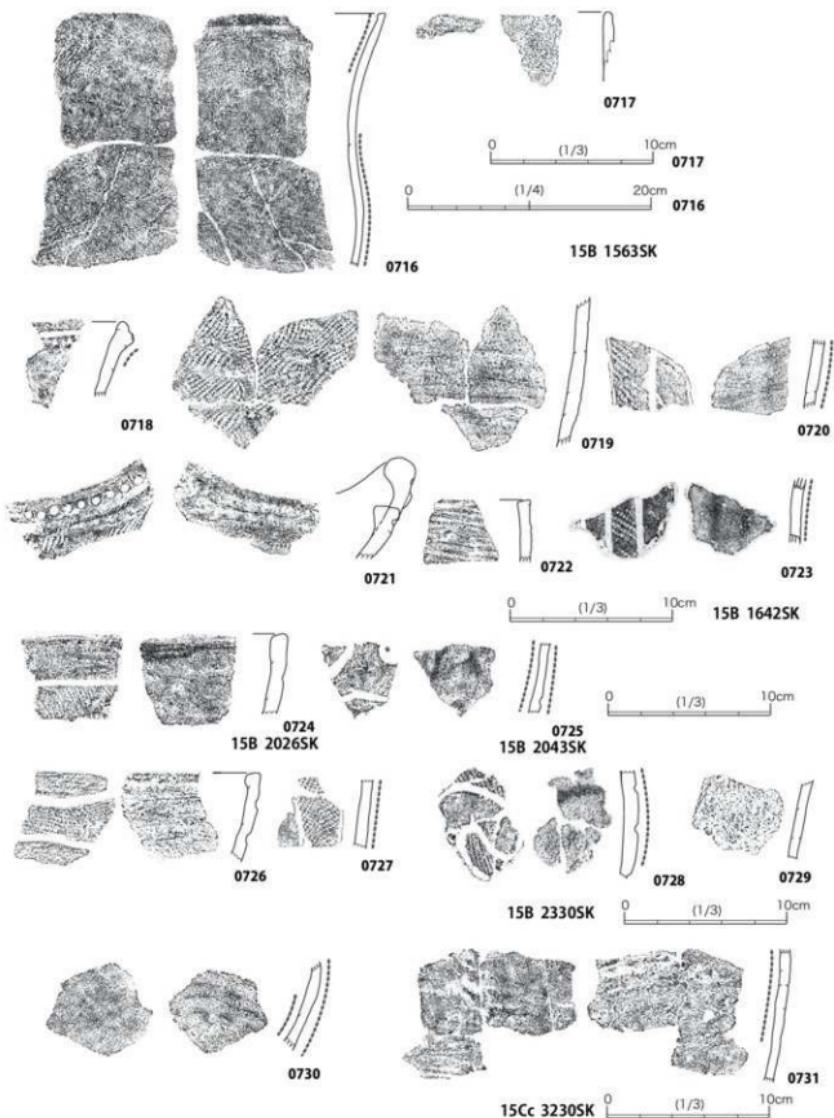
第 143 図 945SK 出土土器 (2)



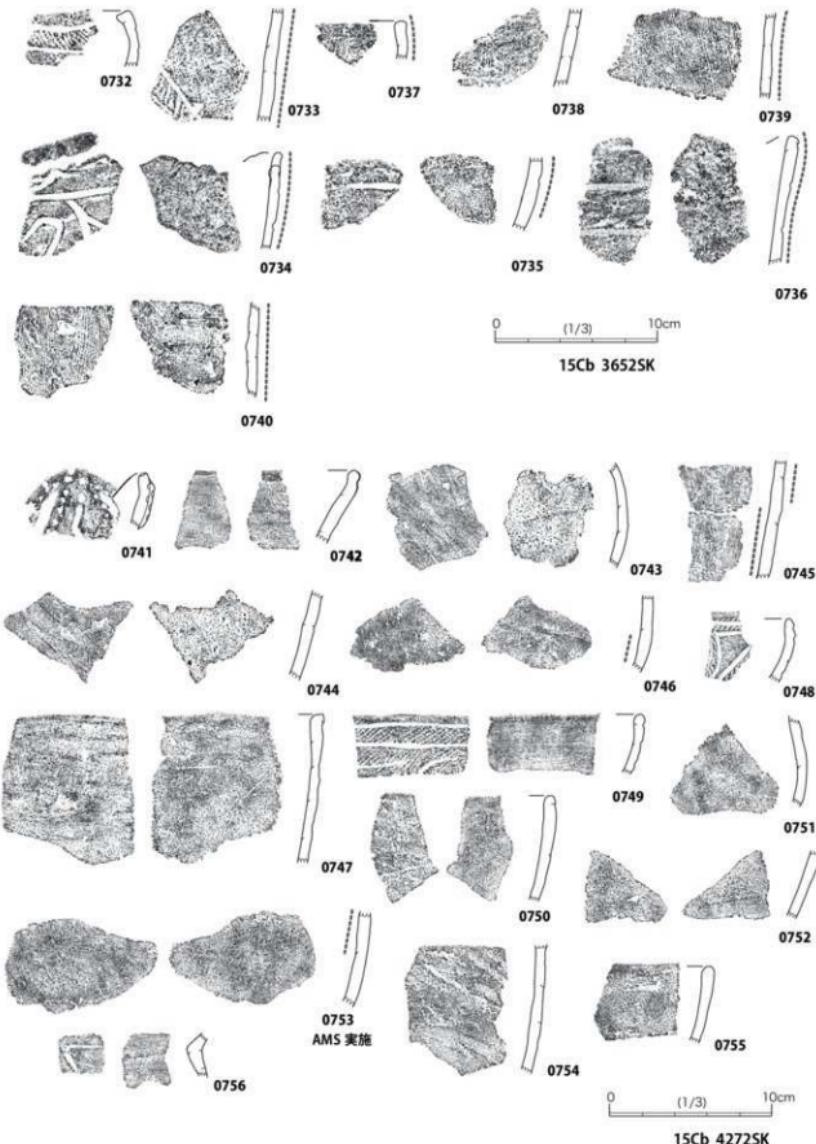
第 144 図 4129SK・4242SK 出土土器



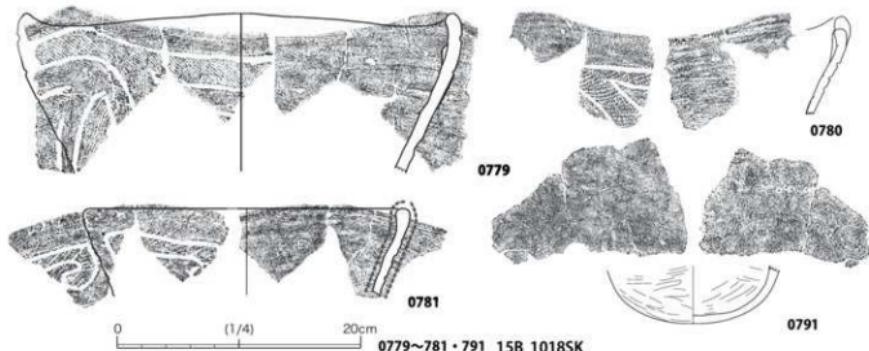
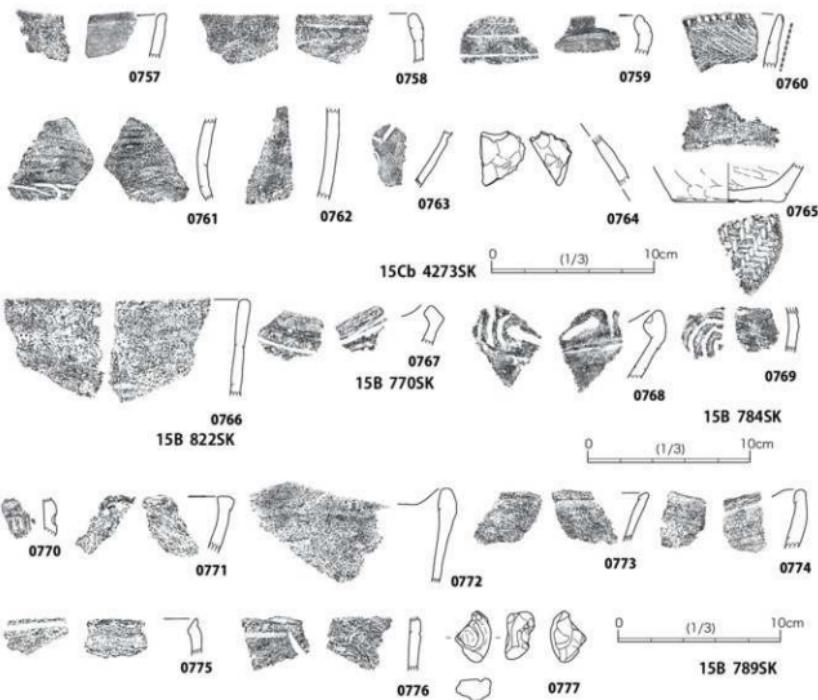
第145図 3633SK他出土土器



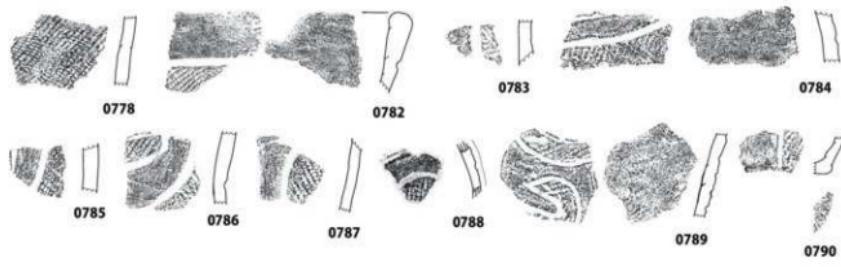
第 146 図 1563SK 他出土土器



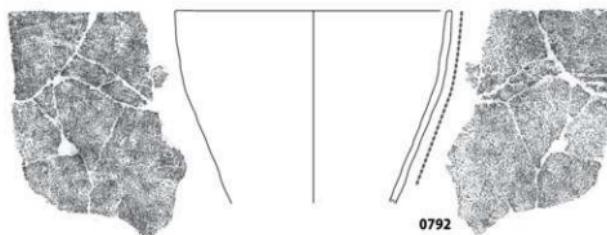
第 147 図 3652SK・4272SK 出土土器



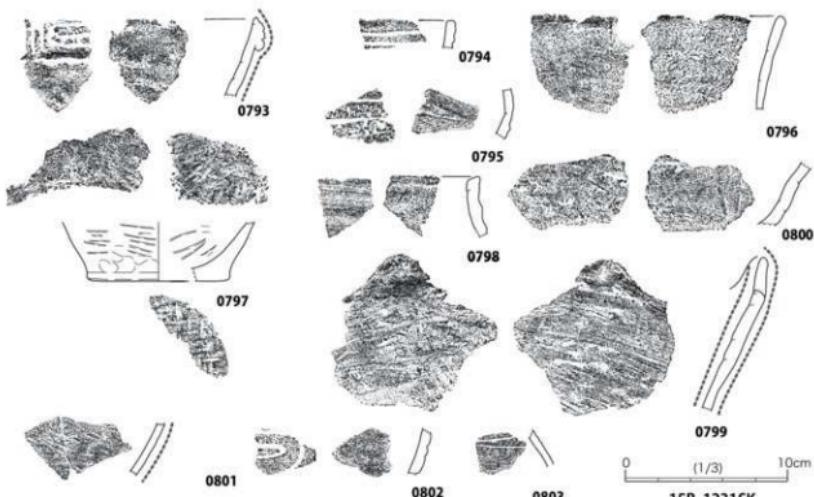
第148図 1018SK他出土土器



0 (1/3) 10cm 15B 10185K



0 (1/4) 20cm 15A 10505K



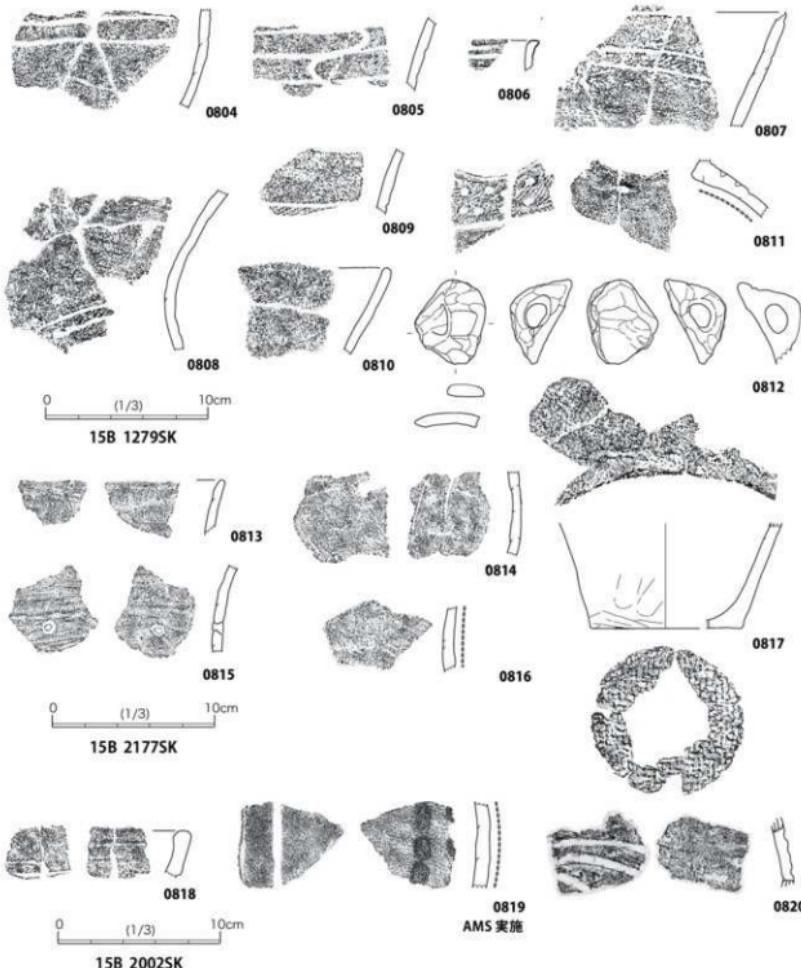
第149図 1231SK他出土土器

蜆塚 K II 式に属するもので、全形が確認できる資料が少ないとから、今後は本時期を代表する土器群になるものと考えられる。

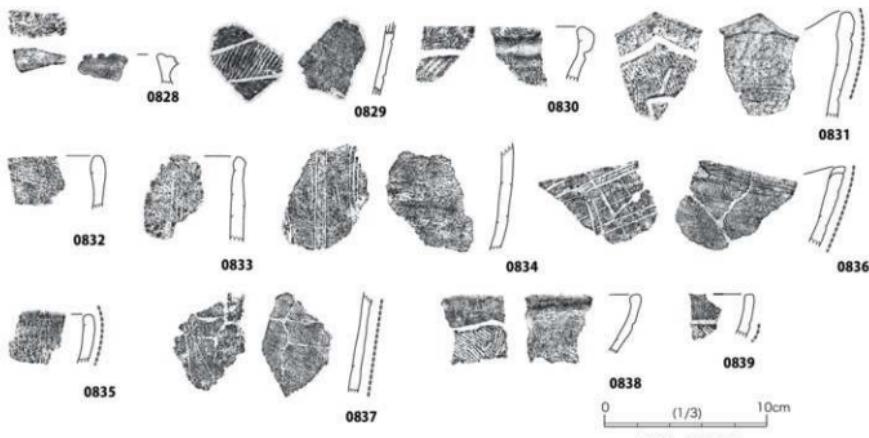
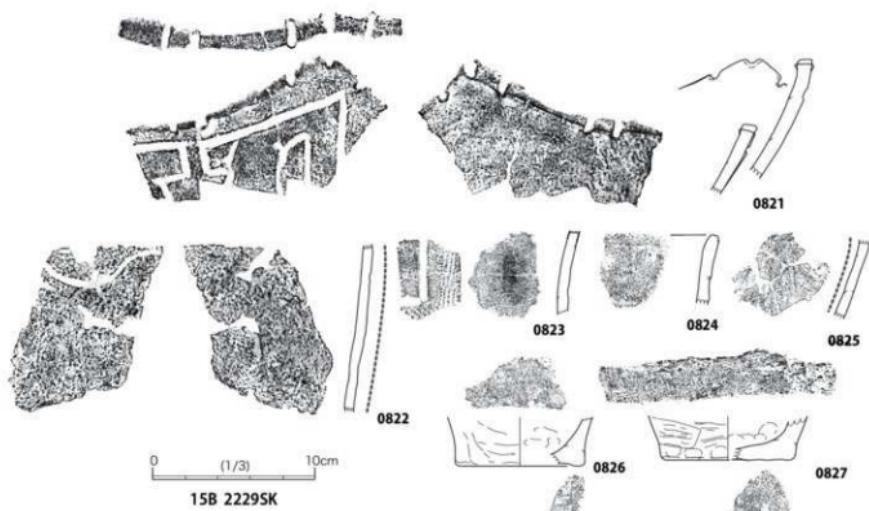
#### (9) 1560SK 出土土器 (0666 ~ 0673)

本例も中津・称名寺式の良好な一括資料と思われる。その中で、0666 と 0667 が代表的な土器といえる。0666 は平縁の深鉢で、口縁部直下の無文帶を置

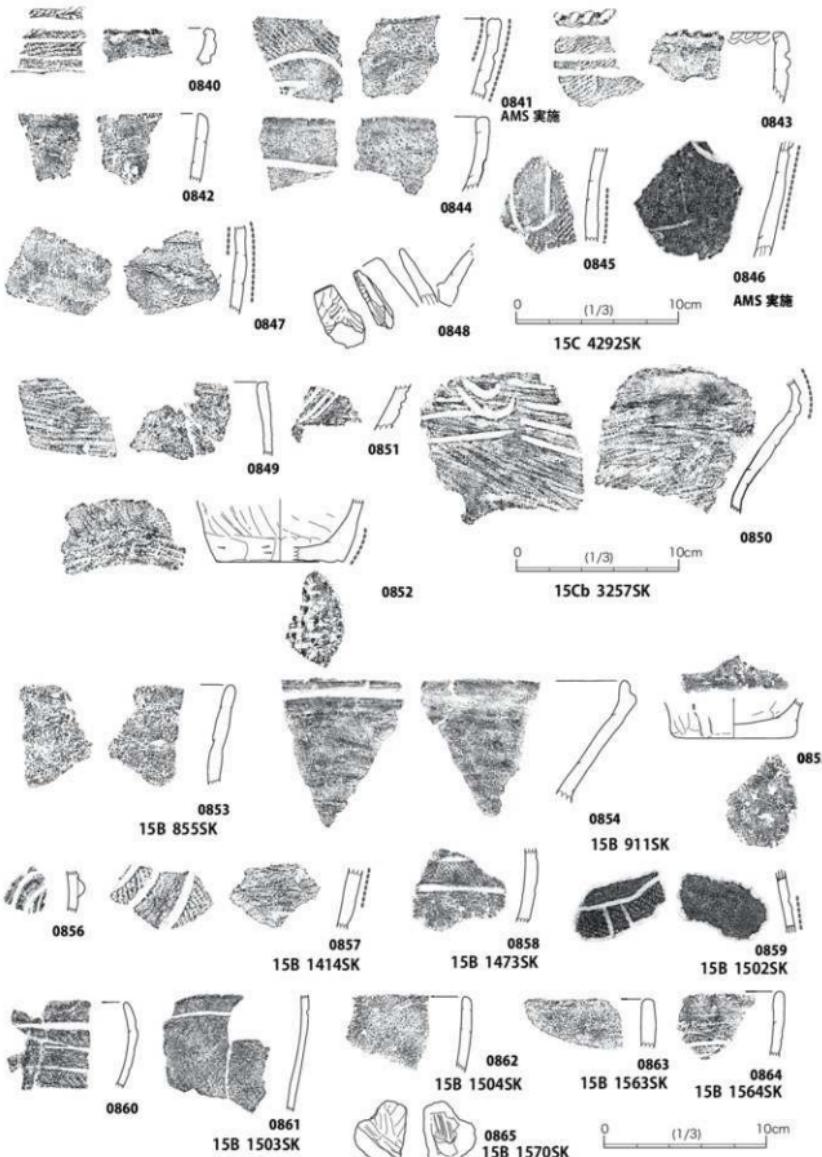
いて、沈線区画内に縄文 LR を充填する文様帯を配している。文様帯は、横帯と J 字文で、J 字文は上下に連なる形をとる。沈線は同工具による竹管状刺突列を包含するものである。0667 は口縁部のみが確認されるもので、口縁端部上面はヘラ状工具による刺突列が巡り、表面には上方弧線や J 字文を意識した弧線が認められる。これらも、中津・称名寺式の新相



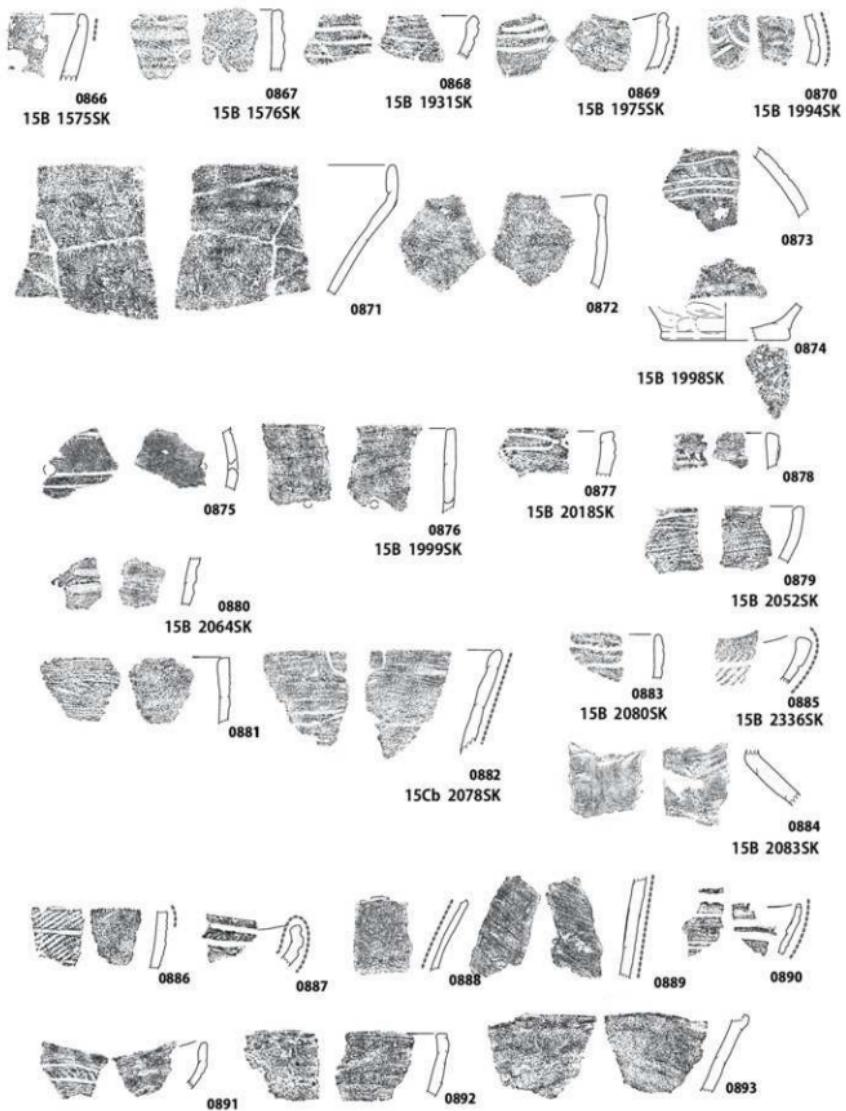
第 150 図 1279SK 他出土土器



第151図 2229SK・3849SK他出土土器



第 152 図 4292SK 他出土土器



第153図 3424SK他出土土器

0 (1/3) 10cm

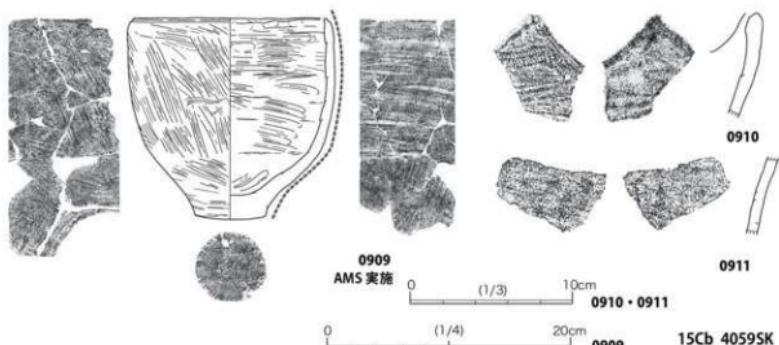
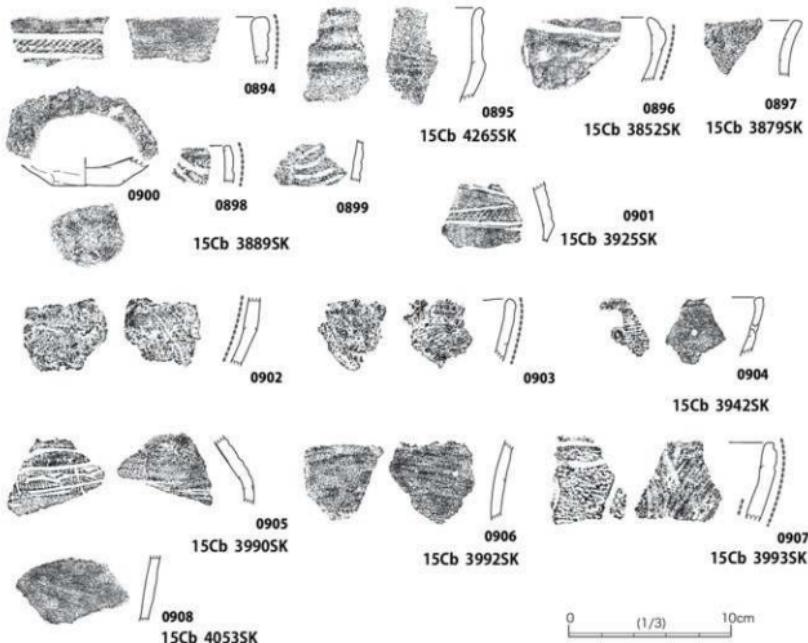
に位置すると考えられる。

#### (10) 4242K 出土土器 (0691)

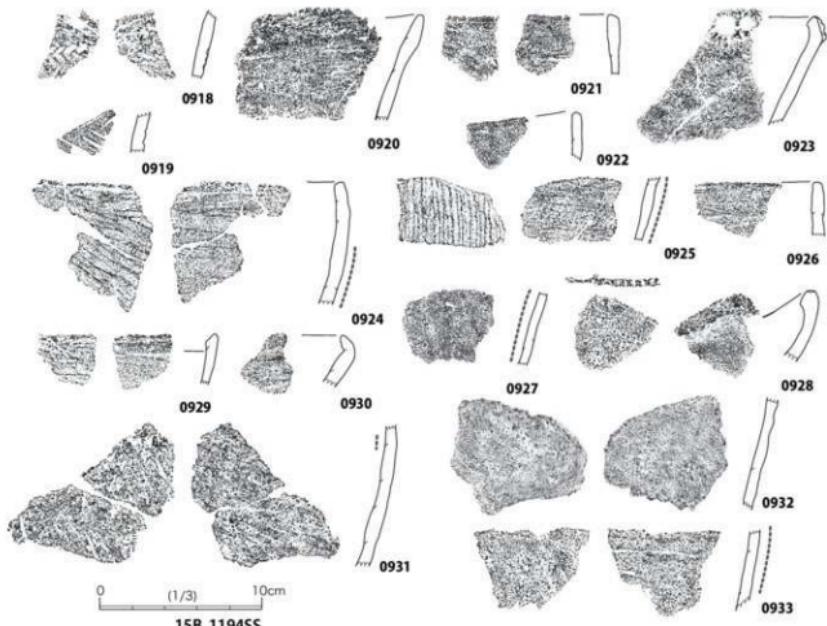
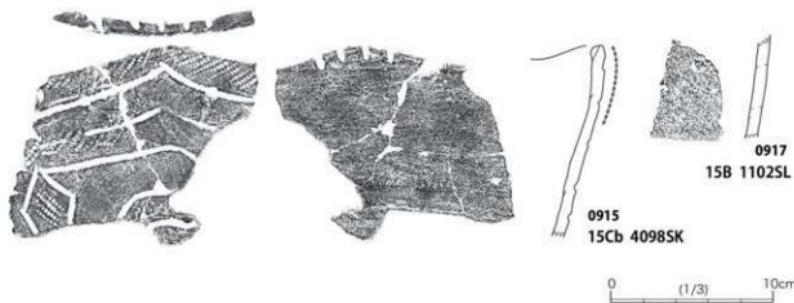
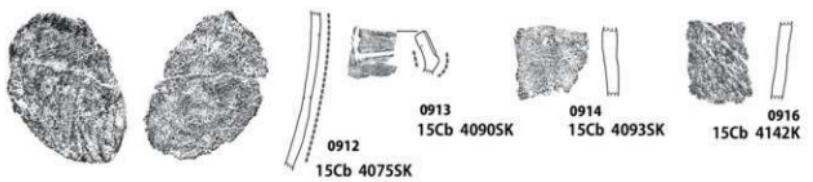
口縁端部上面に文様が施される、いわゆる縁帶文土器（北白川上層式）である。三本一單位の沈線によって、横線・弧線・梢円が施されている。器面調整は、中型巻貝調整である。

#### (11) 943SK 出土土器 (1301 ~ 1307)

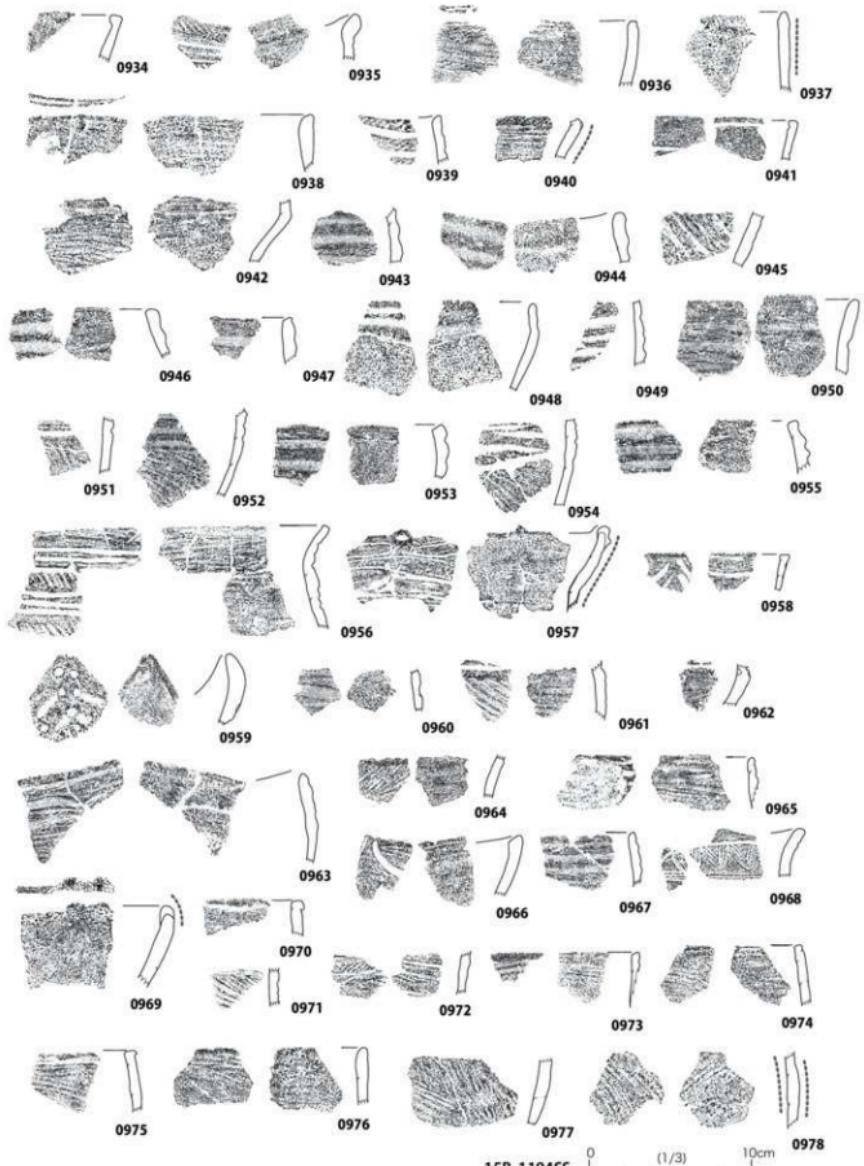
土器埋設遺構（土器棺墓）と考えられる遺構で、1301 が立位で納められていた棺身、その中に 1302・1303 が出土した。1301 は口縁側にやや外反する器形で、端部上面には棒状工具による横圧列が巡る。器面調整は、表面・内面ともにナデ・ケズ



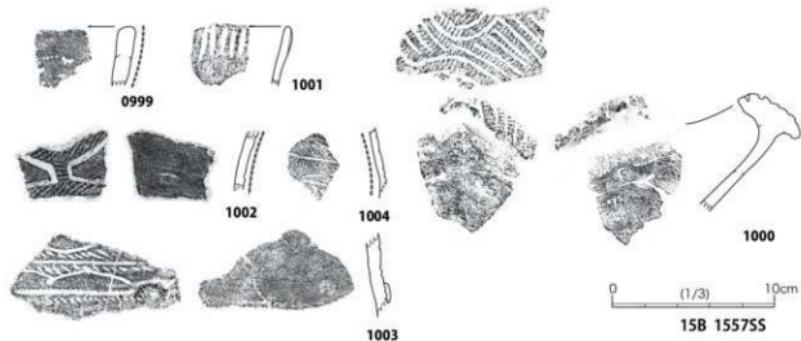
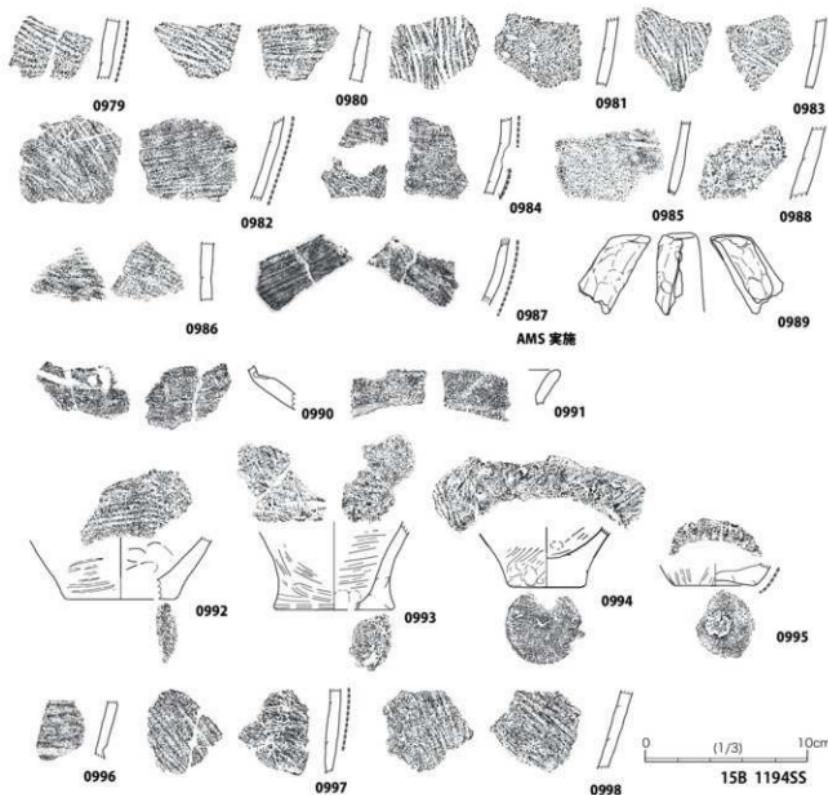
第 154 図 4059SK 他出土土器



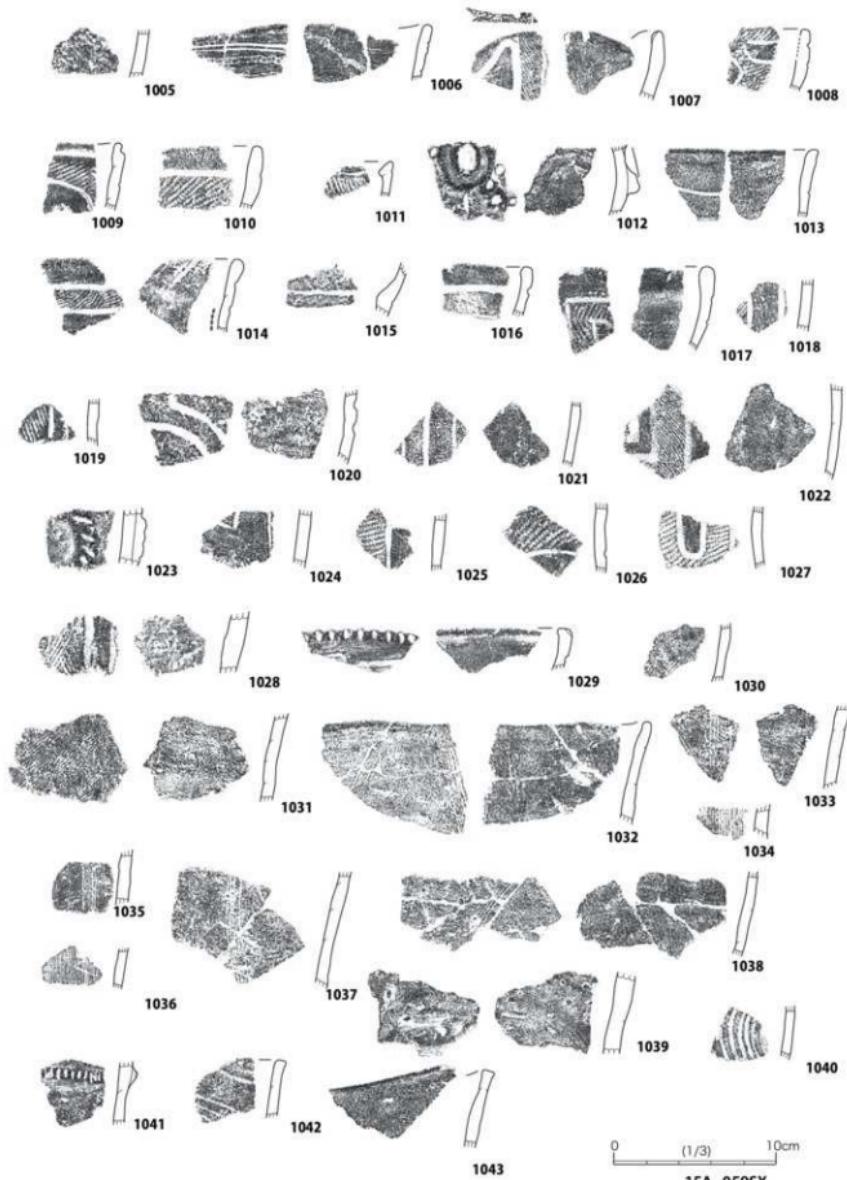
第155図 4098SK他出土土器



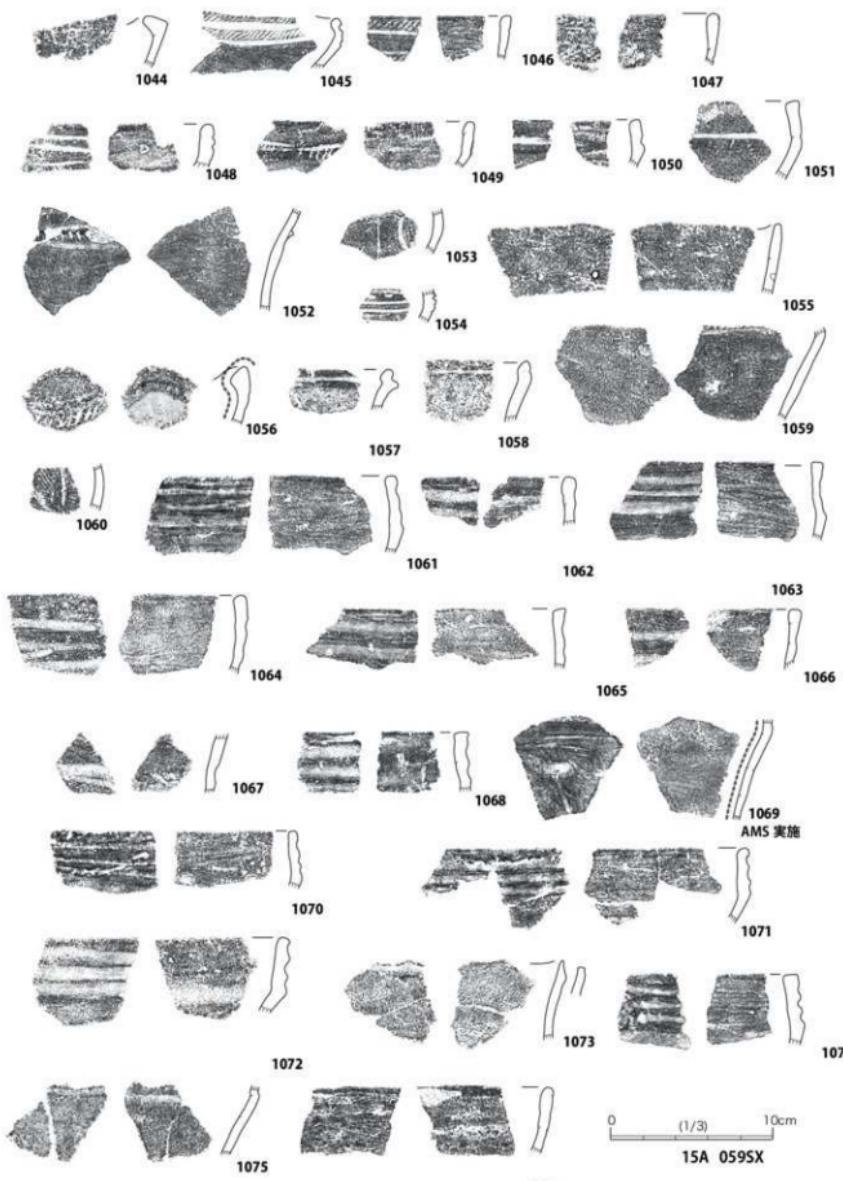
第156図 1194SS出土土器



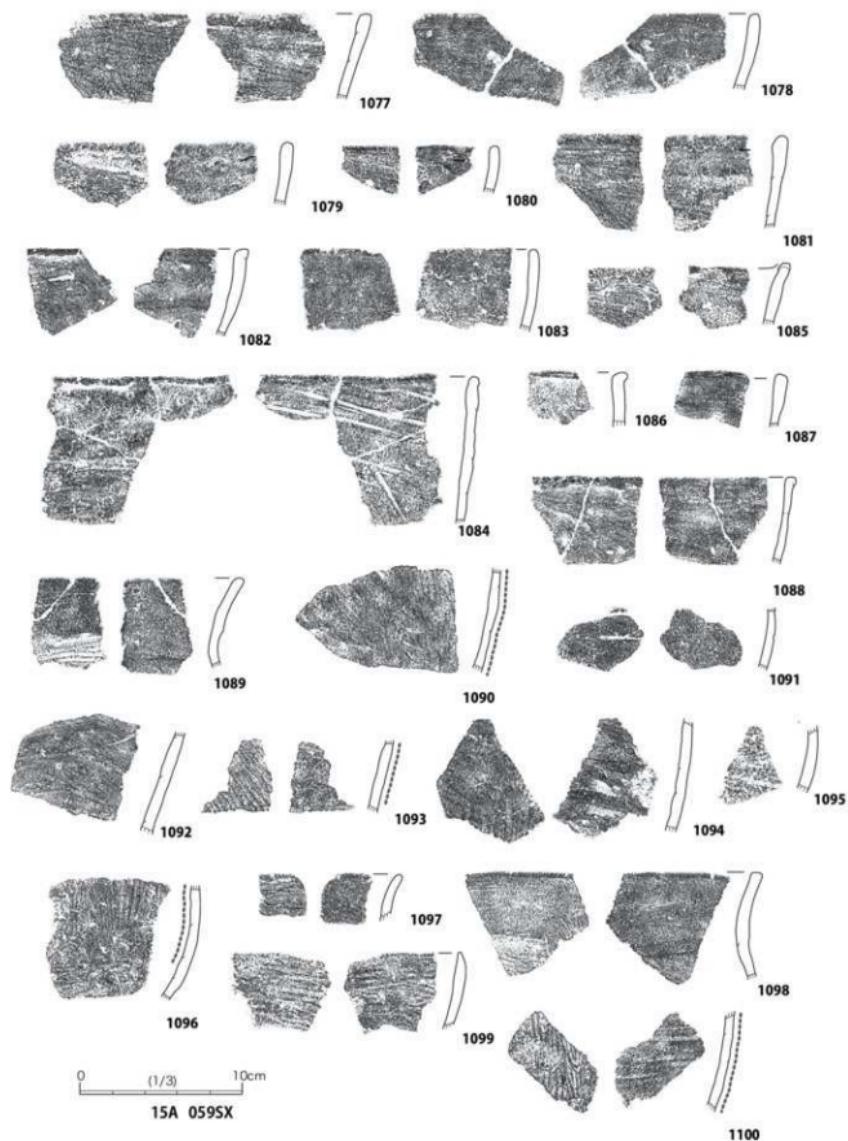
第 157 図 1194SS・1557SS 出土土器



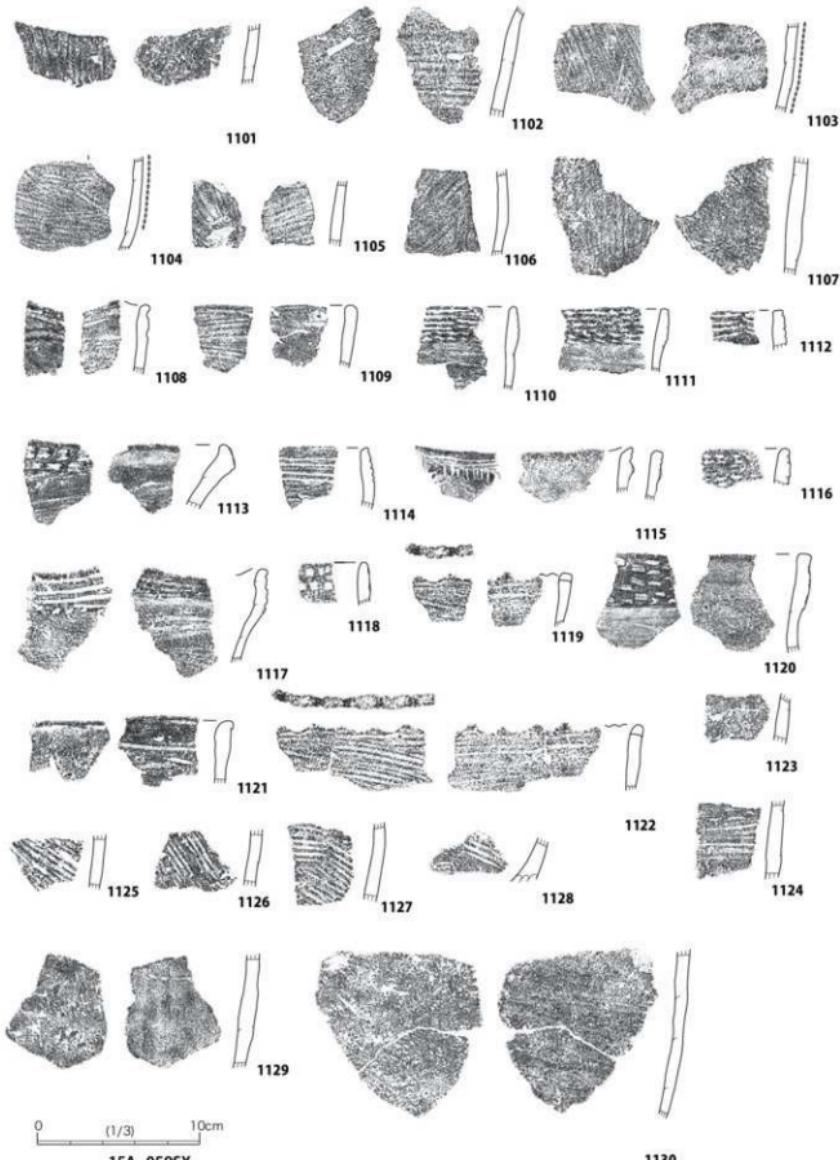
第158図 059SX出土土器(1)



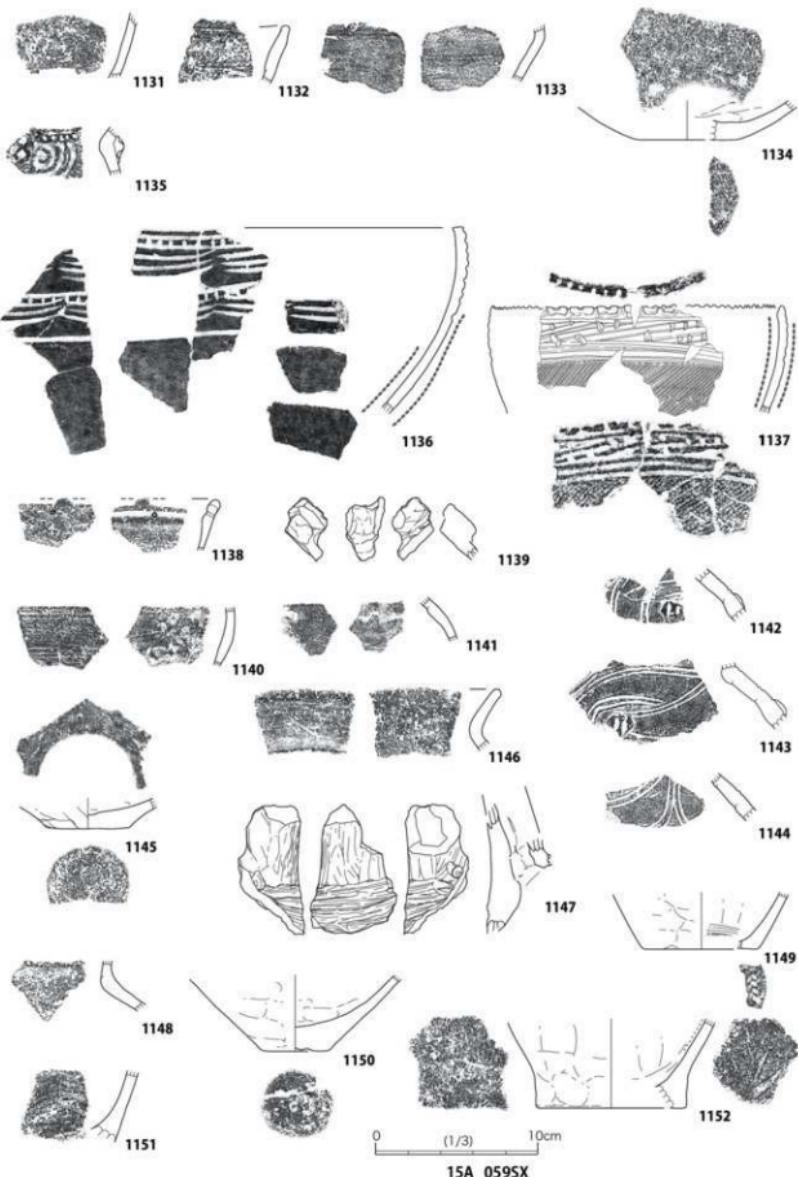
第159図 059SX出土土器(2)



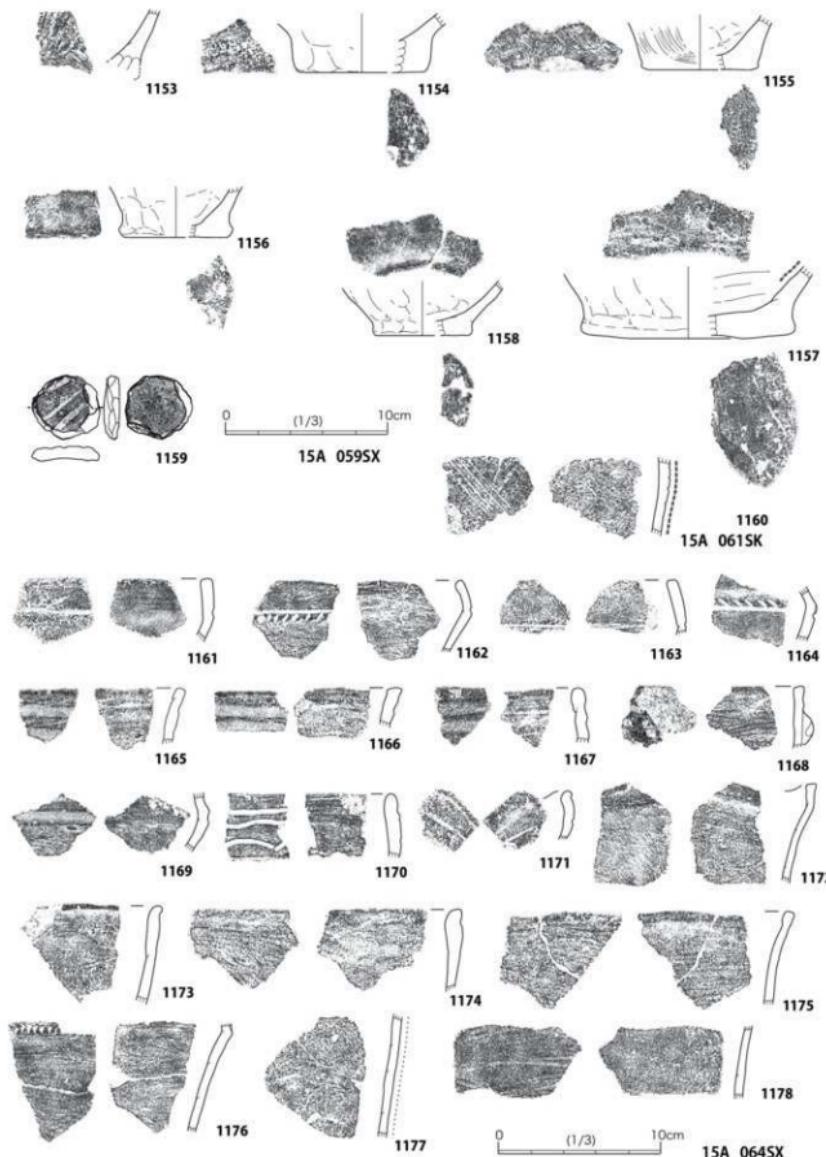
第160図 059SX他出土土器(3)



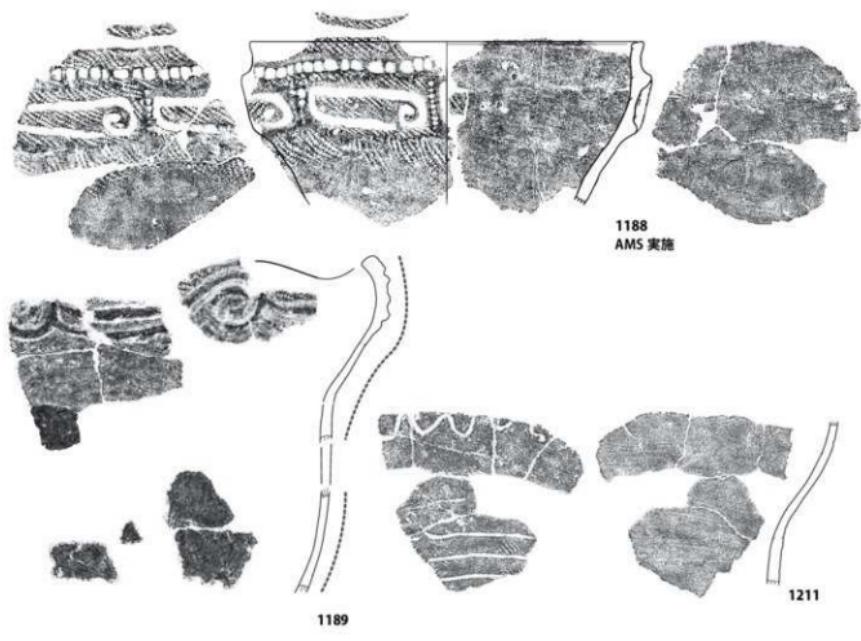
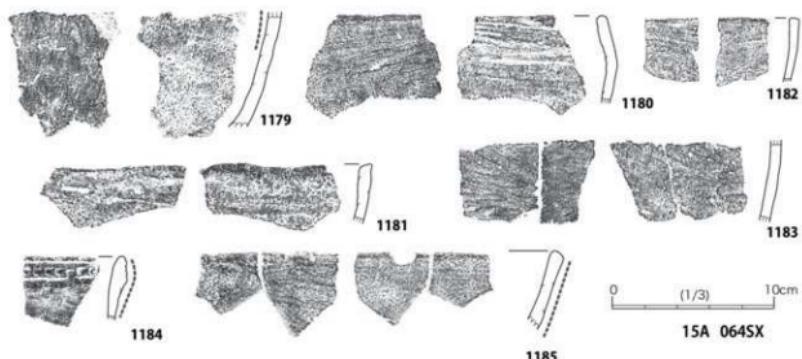
第161図 059SX 出土土器（4）



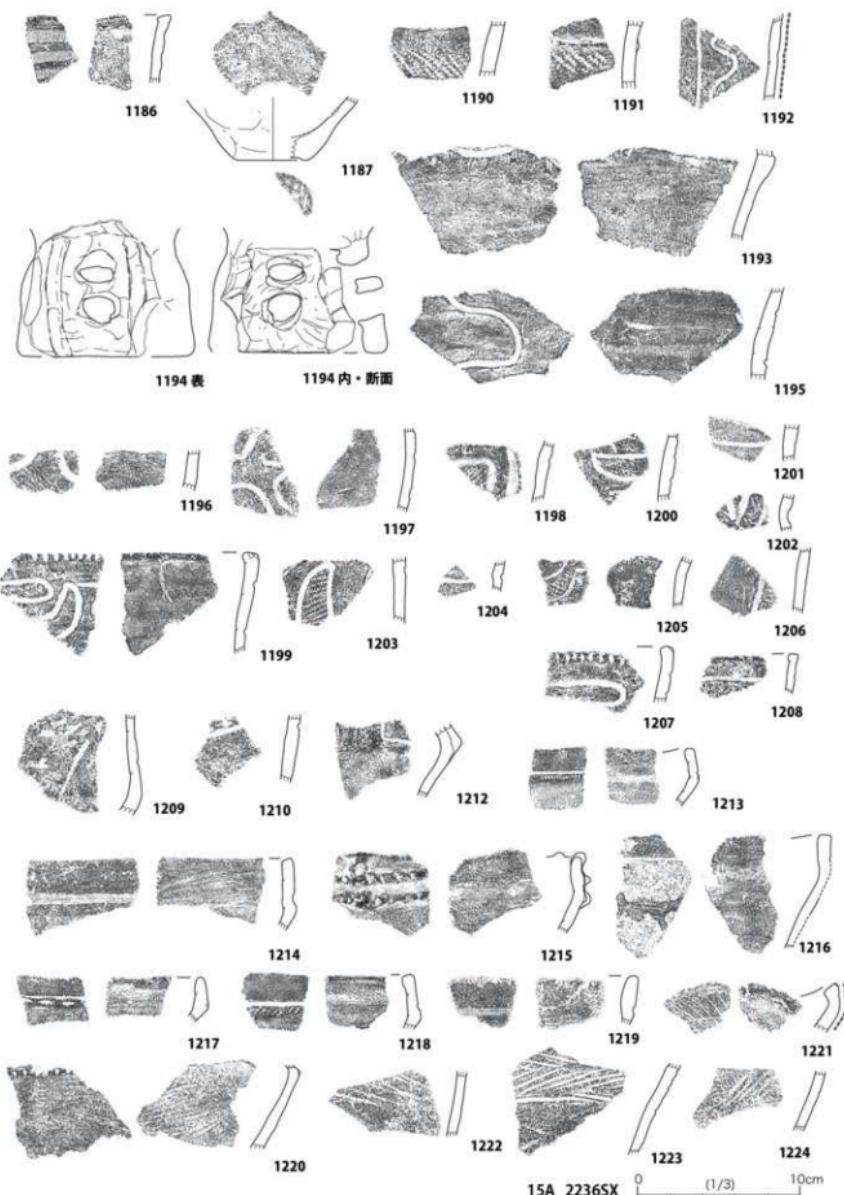
第162図 059SX出土土器(5)



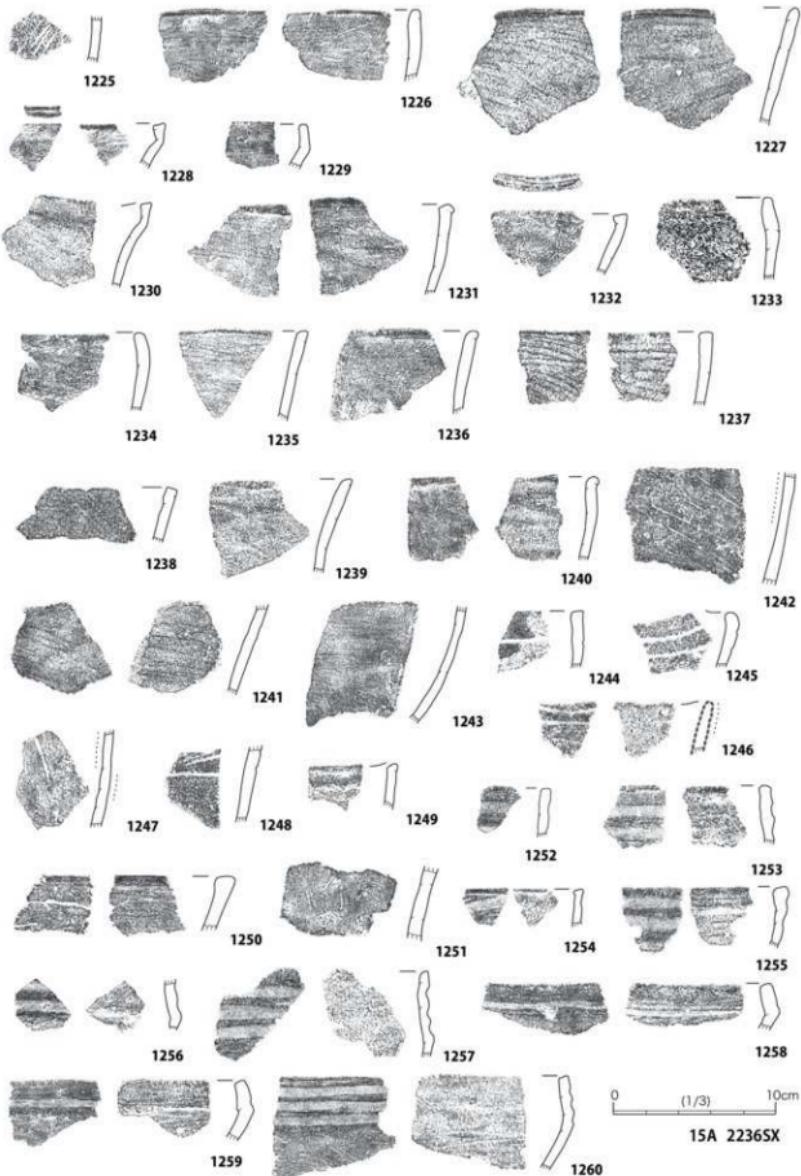
第163図 059SX・064SX出土土器



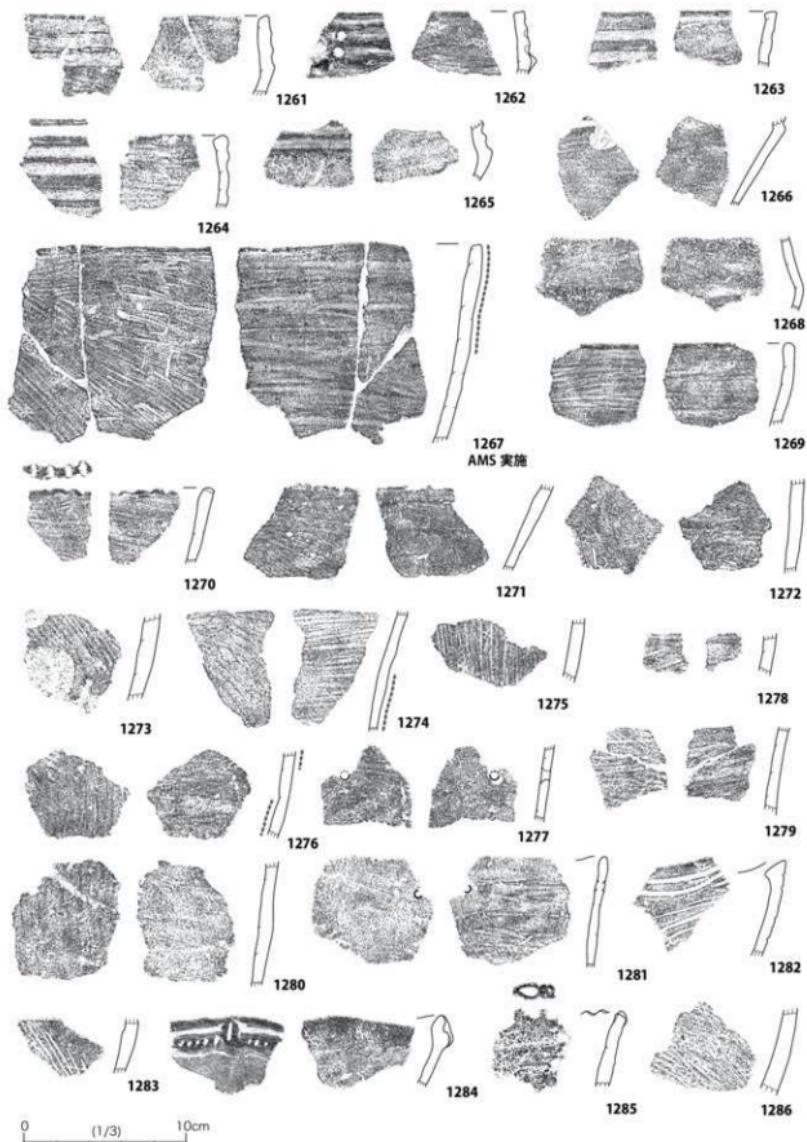
第 164 図 064SX・2236SX 出土土器



第 165 図 2236SX 出土土器 (1)



第166図 2236SX出土土器(2)



第167図 2236SX出土土器(3)



1287



1288



1289



1290



1291

1292



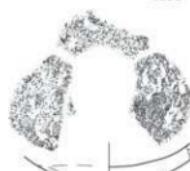
1293



1294



1295



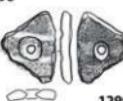
1296



1297



1298



1299

0 (1/3) 10cm

15A 2236SX

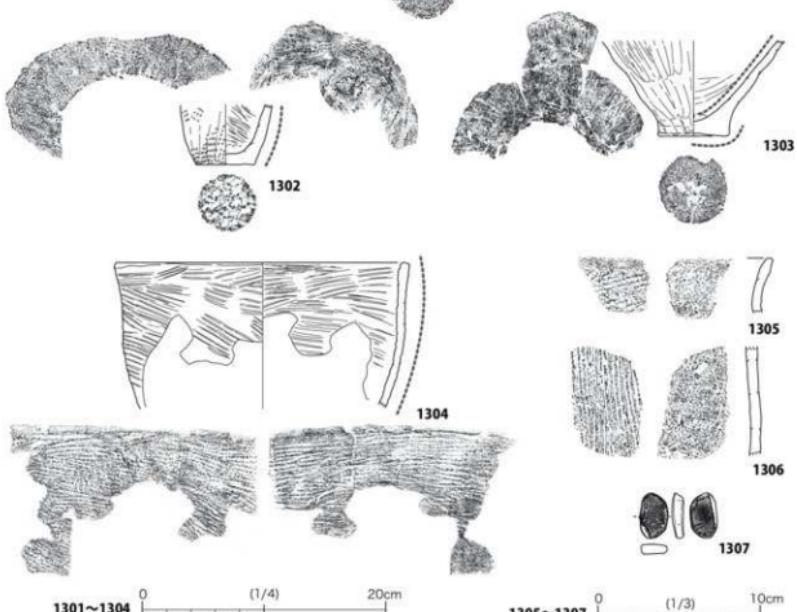
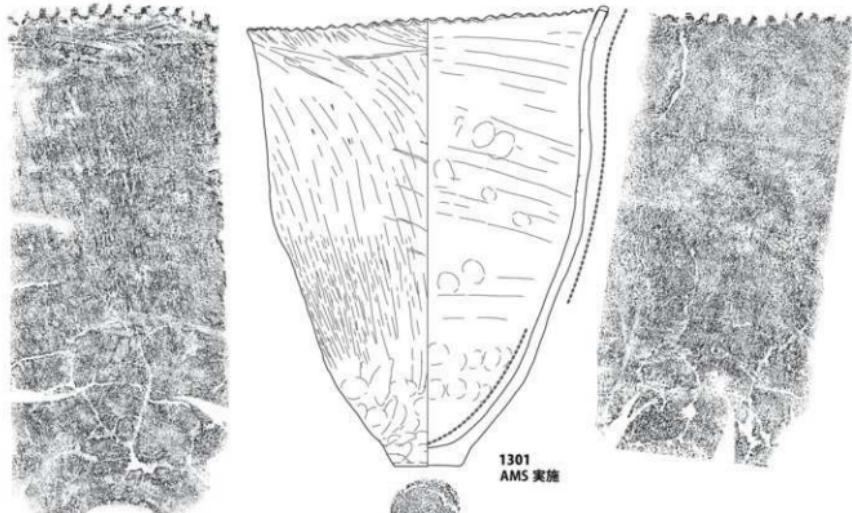


1300

0 (1/4) 20cm

15A 2256SK

第 168 図 2236SX・2256SK 出土土器



第 169 図 943SZ 出土器

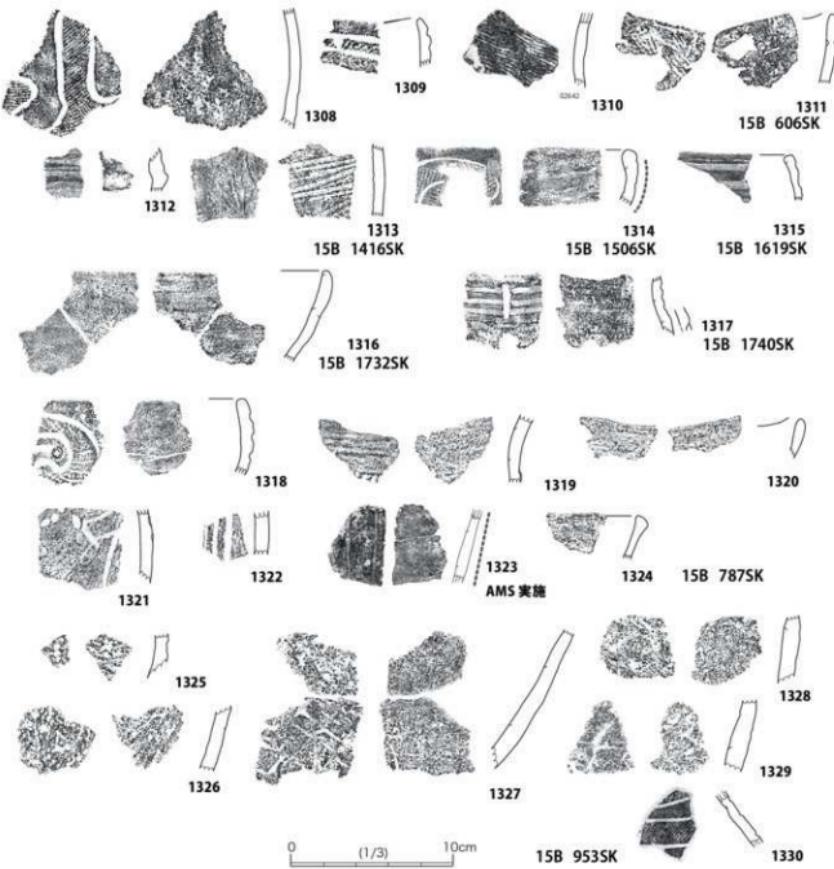
15B 943SZ

リ・オサエである。晩期中葉の稻荷山式に比定されるものと考えられる。一方、1302は胸部下半から底部にかけて残存する小型の深鉢で、表面には擬縄文が施されており、底面には編綴製品圧痕（二本越え・二本潜り・一本送りのゴザ目）が確認できる。縄文時代後期に属するものと思われる。1303も深鉢底部で、底部が明確に作り出されている形状となっている。器面表面・内面ともに幅の広いナデ調整である。これも縄文時代後期に属するものと思われる。

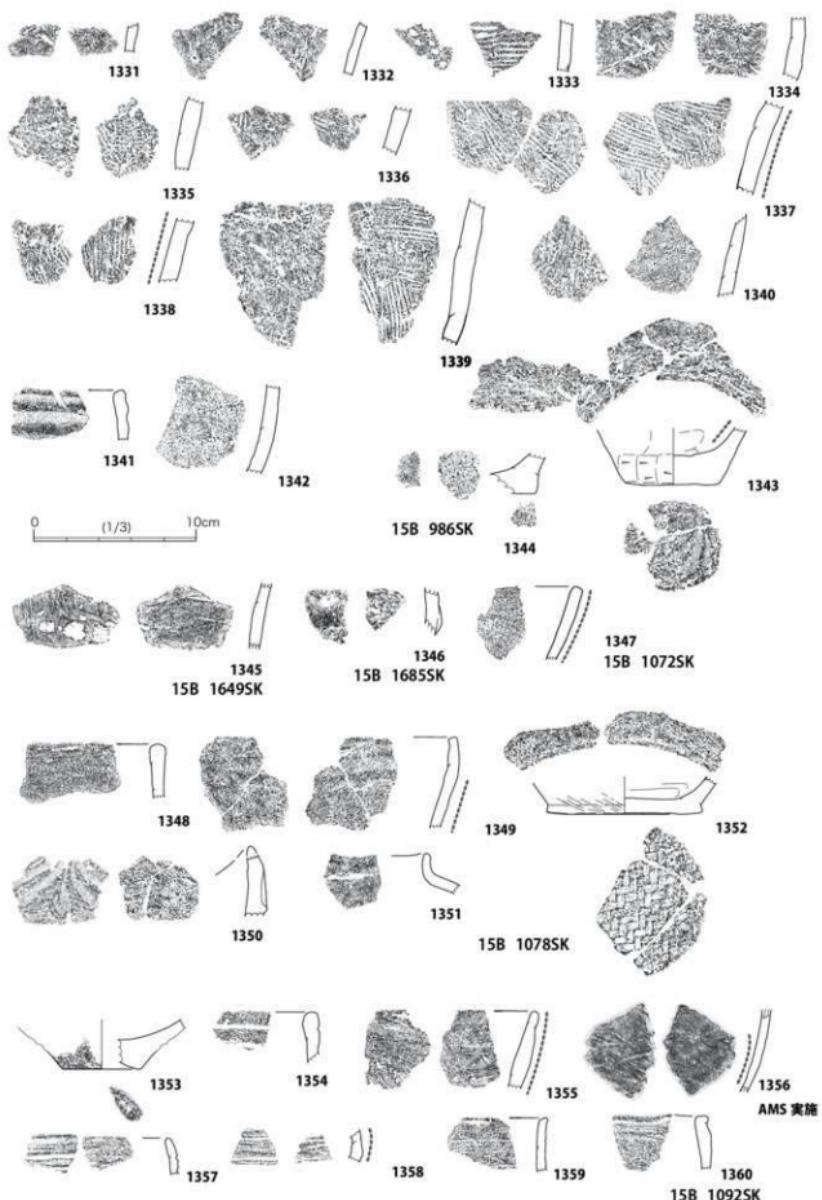
### 3 縄文時代の土製品（4001～4011）

土製品としては、11点を提示した。4002は中空土偶の脚部の可能性があるか。4004は中空土偶の腕

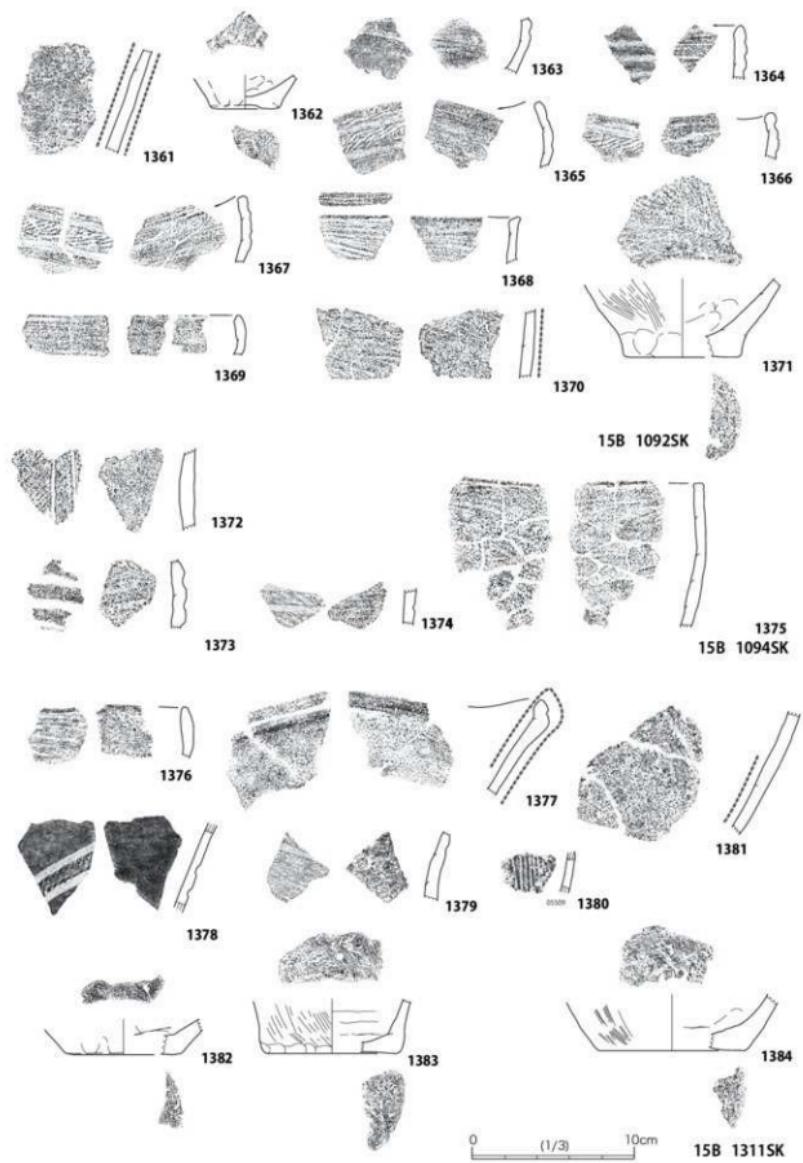
部の可能性がある一方、注口土器の注口部の可能性もある。4001・4003・4008・4011はひとがた土偶の手足部分と思われる。4006はひとかだ土偶右半分の胸部であろうか、乳房表現が想定される部分が欠落している。4005は板状を呈するもので、沈線内に連続した刺突列文が認められる。八王子タイプといわれる板状土偶の可能性もあるが、明確ではない。4010は頸部から胸部にかけて残存しているもので、今回の調査では最も良好に確認できた土偶である。頸部からに頭部側向かって、V字状に粘土の貼り付けが認められ、胸部上方中央部には盲孔がある。乳房表現部分はやや欠失しているものの、表現は明



第170図 953SK 他出土土器



第171図 986SK他出土土器



第 171 図 1092SK 他出土土器